



The Society of Education for Junior High, KAGAWA

香川県立教育研究会 研究紀要

H30
59

第30回 四国造形教育研究大会 香川大会
高松市立香東中

10月25日 (木)



全体会



鑑賞授業風景



表現授業風景



ポスターセッション



作品展示



記念講演

第56回 中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会
高松テルサ、三木町立三木中、高松市立勝賀中、高松市立太田中、高松市立高松第一中
11月1日(木)～11月2日(金)



全体会



公開授業 1



公開授業 2



公開授業 3



提案分科会 1



提案分科会 2

第50回放送教育研究会 四国大会香川大会
丸亀市立綾歌中、アイレックス

10月25日(木)



記念講演会



全体会 1



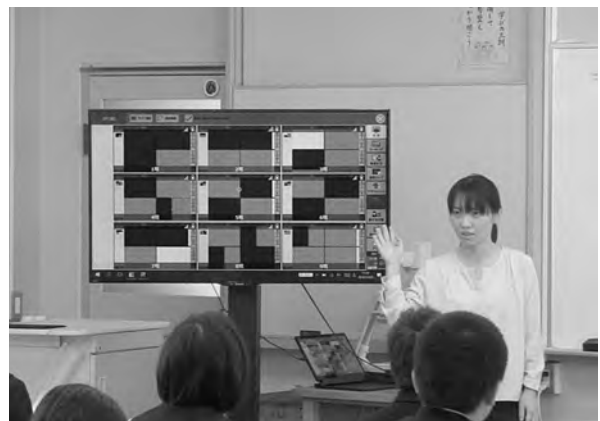
全体会 2



分科会 1



分科会 2



デモンストレーション

香中研 特別活動研究部会 研究大会
さぬき市立さぬき南中
10月4日(木)

香中研 生徒指導研究部会 研究大会
坂出市立東部中
10月30日(火)



全体会



全体会



公開授業 1



授業風景 1



公開授業 2



授業風景 2

香中研 人権・同和教育研究部会 研究大会
三豊市立和光中
11月8日(木)



授業風景 1



授業風景 2



授業風景 3

目 次

香川県中学校教育研究会 研究紀要

第59号

グラビア（研究大会の状況）	保健体育教育研究部会……………22
はじめに	英語教育研究部会……………23
香川県中学校教育研究会	養護研究部会……………24
会長 山下昌宏…………… 1	道德教育研究部会……………25
	学校図書館研究部会……………26
あいさつ	学校保健研究部会……………27
香川県中学校長会	特別支援教育研究部会……………28
会長 小笠原隆夫…………… 2	へき地教育研究部会……………29
	学校事務研究部会……………30
I 本年度の研究主題…………… 3	進路指導研究部会……………31
	学校給食研究部会……………32
II 本年度の研究発表と	
来年度の研究発表予定…………… 4	IV 事業報告
	本 部……………33
III 研究報告	各 支 部……………34
1 研究大会を実施した部会	各 部 会……………37
美術教育研究部会…………… 5	研 究 委 託……………43
技術・家庭科教育研究部会…………… 7	若 年 研 修……………44
特別活動研究部会…………… 9	
生徒指導研究部会……………11	V 組織等
メディア教育研究部会……………13	役 員……………45
人権・同和教育研究部会……………15	予 算……………47
2 研究大会を実施しなかった部会	会 則……………48
国語教育研究部会……………17	部会運営細則……………50
社会科教育研究部会……………18	研究大会開催地区割り当て計画……………51
数学教育研究部会……………19	香中研とはこのような団体です……………52
理科教育研究部会……………20	編集後記
音楽教育研究部会……………21	

は じ め に

香川県中学校教育研究会
会 長 山 下 昌 宏

昨年度から香川県中学校教育研究会では大きく2つの点が議論されてきました。

1点目は、教科外部会の改編です。喫緊の課題である不登校問題への対応の必要性から、教育相談部会の設立が議論され、新しい部会の設立は難しいことから、学校保健部会を廃止し、新しく教育相談部会を設立することとなりました。また、これまでも特別活動部会と進路指導部会の研修内容の重複が指摘されており、そこで二つの部会を統合してはとの考えが示され、特別活動部会に統合することとなりました。

2点目は、教科外部会の研究大会を教科と同様、統一日に実施することについて議論されました。これまで教科外部会の研究大会は五月雨方式で2年間で開催することになっていました。集中を避けるためではありましたが、せっかくの研修の機会であるにもかかわらず、参加することができないとの声も多くありました。そこで、統一日に実施することで、全教職員が研修に参加できる場を確保することとしました。

[主な変更点：平成32年度より]

①教科外部会の統合及び改編

- ・ 特別活動部会と進路指導部会を統合して、特特別活動部会とする。
- ・ 学校保健部会を改編して、教育相談部会とする。

②教科外部会の研究大会の持ち方

- ・ 平成34年度から統一日に実施する。
これにともない、原則、平成32年度が教科の統一研究大会、平成34年度が教科外の統一研究大会となる。

新しい教科外部会は平成32年度から動き出すこととなり、最初の統一日での研究大会の開催は平成34年度となります。これにともない、研究そのものの進め方だけでなく、夏季研修会の持ち方や事務局の運営の在り方など、多くの点で見直しを進める必要があります。

私は学校の教育課程全体を見たときに、教科と共に教科外が学校教育に担う役割は大きく、子どもたちの健やかな成長に欠かすことのできないものであると考えています。3年に一度ではありますが、より多くの教職員が研究大会に参加できることは一歩前進ではないかと思っています。

社会の変化は著しく、これまで以上に50年先、100年先を予測することは不可能に近いと思われます。特にAIの発達は著しいものがあると推察できます。教育の在り方も変わってくるのが考えられ、子どもの傍らにAIスピーカーがあり、問いかけると音声で質問に答えたり、手元のタブレットに表示されたりするかもしれません。しかし、学校は同年代の子どもたちが共に生活することで、勉強だけでなく社会性や自立性を培うところです。人と人が関わる中で人間性を育て人格を形成するという学校が果たす根本的な役割は変わらないものと思われます。その中心的な役割を果たすのもやはり教師でなければならないと確信しています。

不易流行という言葉のとおり、教育において時代を超え大切にすべきことは何か、また、時代の流れを見通し子どもたちが身に付ける必要がある資質・能力とは何かを見失わないように私たち教員は日々研鑽することが大切と思います。

これから香川県では人口の減少が予想されています。それに伴い児童生徒数も減り、学校の統廃合がさらに進む可能性があります。香川県中学校教育研究会としても、不断の見直しをすることで、教職員の資質・能力の維持、向上に努めるため、今まで以上に重要な役割を担うこととなります。

子どもたちが安心・安全に過ごせる学校環境を保持し、「すべての子どもたちの健やかな成長」のために教職員が一丸となって香川の教育の向上に努めたいと思っています。

はじめに

— 香中研に期待する —

香川県中学校長会
会長 小笠原 隆 夫

校長会の仕事の関係で、他県の校長先生方とお話をする機会が増えました。話題が、教員の資質・能力の向上あたりになると、決まって次のようなことを言われます。「香川県は研究組織がしっかりしているので、うらやましいです。」「香川県の先生方は研究熱心で、研究大会等で授業を見せていただくと、いつも資質・能力の高さを感じます。」また何年前、一緒に勤めたことのある若い他県出身の先生と、こんな会話を交わしたことがあります。「先生は、どうして出身県で教員をしないで、香川で教員をしているのですか?」「香中研の部会で勉強して、高い授業力を身に付けたい、と考えているからです。」彼は現在、ある教科の中核として活躍しています。

本県においては、教員の大量退職による世代交代の波が着実に打ち寄せており、それに伴う教育力の低下が懸念されています。私の勤務する学校においても、確実に世代交代が進んでいるものの、全教員のうち50代以上の者が占める割合は、依然として40%前後で推移しています。校内においては、現職教育主任を中心に研究体制を工夫し、その充実を図るなどして、対策を講じているところではありますが、なかなか効果の出ていないのが現状です。各教科の教員数が1人ないし2人の小規模校にあっては、その苦労は推して知るべし、です。

このような中であって香中研の果たす役割には非常に大きなものがあると感じています。昨年2学期に本校において香中研高松支部の理科部会と音楽部会の教科研が開催されました。高松南ブロックから、それぞれ30名近い先生方の参加があり、高松市教育委員会の指導主事さんからも指導をいただきました。授業者であった本校の教員からは、「他校の先生方から、ご自

身の実践を紹介いただくとともに、それを踏まえた貴重なご意見をお伺いすることができた。」「指導主事さんから最新の情報を盛り込んだ的確なご指導をいただいた。」などの感想を聞くことができました。こうした学校の枠組みを超えた組織としての取組ができることこそ、香中研の強みであり、今後ともぜひ継続していかなければならないことであると思います。

近年、日本は本格的な人口減少社会を迎えています。浜田県知事様のお話の中にも必ず人口減少問題の克服、あるいは地域活力の向上の必要性が触れられています。現在96万人余を数える本県の人口も、40年後の2060年には60万人程度にまで減少する可能性があると言われてい

ます。今年度香中研では、特別活動部会と進路指導部会の統合、学校保健部会の教育相談部会への変更などの組織改編と、教科外研究大会の運営の見直し等に取り組んでいただきました。今後はこうした人口減に伴い、ブロック割りをどうするか、などの課題についても切実なものになってくるものと思われます。この他にも、まだまだ課題は山積していることと思いますが、本県教員の資質・能力の向上に向け、ひいては香川の子どもたちの夢と笑顔が決して絶えることのないよう、不断の改善に取り組んでいただければ幸いです。

結びに、山下会長様はじめ、関係各位のご尽力に深く敬意を表しますとともに、香川県中学校教育研究会の今後ますますの充実・発展を祈念申しあげまして、ご挨拶といたします。

I 本年度の研究主題

1 研究主題（平成24年度より32年度まで継続）

教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動

（キーワード） 継承・改善 研究体制 資質・能力
主体的・対話的で深い学び カリキュラム・マネジメント

2 研究主題設定の理由

本会は昭和36年に発足し、県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言、支援を受けながら、また連携を図りながら本県の中学校教育の振興に大きく寄与してきた。本会を今後さらに充実・発展させるためには、次の3点の課題を解決する必要がある。

① 現在、教員の高齢化と大量退職に伴い、学校現場において、ベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承が課題とされている。また、各支部・部会における実質的な担い手が学校においても主要な役職にあるなど高齢化が問題となっている。今後、スムーズな世代交代を図り、研究方法や組織運営のスキル等を次の時代を担っていく若手教員に確実に伝えていく必要がある。（継承・改善）

② 教職員が研究授業や実践発表を進んで行う姿勢は、学校の活性化につながるものである。各学校においては、教職員に対して、研究会活動への積極的な参加を促すとともに、研究会の役割と意義について、自覚を求めていく必要がある。

また、各支部・部会における研究活動の成果や課題を教職員自らの実践としてさらに反映させるとともに、各学校においては、成果や課題を共有し合う場を設定するなど、香中研の研究活動を学校の教育活動に生かせるように、研究体制の更なる充実を図る必要がある。（研究体制）

③ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、時代が変化しても授業力の向上は必要不可欠である。県教育センターの平成29年度全国学力・学習状況調査報告書の「質問紙調査の結果から見る5年間の軌跡～香川県版～」によると、「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対し、肯定的な回答が、平成25年の15.5%から平成29年の38.4%へと5年間で大きく増加している。「1・2年生のときに受けた授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対しても、肯定的な回答が12.5%から27.1%へと増加している。これらは、各学校が進めてきた授業改善等の成果であり、香中研の研究主題を、これまでの生徒像から、個々の教師像や学校像に変更し、授業力を中心に教職員の資質・能力に着目した研究を行ってきた成果でもある。香中研の自主研究団体としての性格を明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることの自覚を促し、教職員の資質・能力の向上や学校の教育力の向上をめざし、さらなる研究会活動の活性化を図る必要がある。（資質・能力）

また、平成28年度の中央教育審議会答申において、授業改善に関わる次の新しい視点が

示された。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点

- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点

- ・ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

これら3つの視点に立った授業改善を行い、質の高い学びを実現するとともに、生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成をめざしていきたい。（主体的・対話的で深い学び）

さらに、生徒は学校教育全体の取組の中で育つ。そこで、各学校においては、

- ・ 生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ・ 教育課程の実施状況を評価しその改善を図っていくこと

- ・ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るようにしていきたい。（カリキュラム・マネジメント）

3 今後の研究推進について

本会が目的とするところは、生徒に生きる力を育てるために一人一人の教職員が、各支部・部会での研修等の活動を行うことで、個として高めた意欲や知識・技能が学校現場に反映され、学校が組織として機能する力として高められることである。したがって、本研究主題は、研究会活動とそれを生かす学校教育の在り方も視野に入れたものである。そこで、次の点に重点を置きながら、各支部・部会で計画的に実践していくこととする。

- ・ 研究の継続性を図るため、本研究主題を平成32年度まで継続する。

- ・ これまで各支部・部会で研究実践してきた指導法の研究を継続、発展させながら、ベテラン教職員から若手教職員への指導法等の継承を図る。

- ・ 継承の視点で見直した各支部・部会の研究体制のもと、授業に関する実践的研究等を組織的に行い、改善の視点から研究の成果と課題を明確にする。

Ⅱ 本年度の研究発表と来年度の研究発表予定

■平成30年度 香川県中学校教育研究会研究大会・研修会一覧

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	美 術	10月25日(木)	高松	高松市立香東中	四国	生活を豊かにする美術の学び ～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～
2	技術・家庭	11月1日(木) 11月2日(金)	高松	高松テルサ 三木町立三木中 高松市立勝賀中 高松市立太田中 高松市立高松第一中	中四国	社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する技術・ 家庭科教育 ～学びの質を高める問題解決的な学習のあり方～
3	特別活動	10月4日(木)	小さ東	さぬき市立さぬき南中	県	なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成 ～話し合い活動を軸として～
4	生徒指導	10月30日(火)	坂綾	坂出市立東部中	県	自己指導能力を育てる生徒指導のあり方 ～対話による共感的人間関係に支えられた集団作りを めざして～
5	メディア 教 育	10月25日(木)	丸仲	丸亀市立綾歌中	四国	学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の 推進～
6	人権・同 和 教 育	11月8日(木)	三観	三豊市立和光中	県	共に考え、伝え合い、自他の良さや違いを認め合う生 徒の育成

■平成31年度 香川県中学校教育研究会研究大会・研修会一覧

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	国 語	10月24日(木)	高松	高松市立古高松中	四国	生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教育の創造 ～言語を介して他と能動的にかかわる力を育てる国語 授業の在り方～
2	理 科	11月14日(木) 11月15日(金)	坂綾	宇多津町立宇多津中 坂出市立坂出中	中四国	進んで自然とかかわり、科学的に探究する生徒の育成 ～理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む学 びを通して～
3	道 徳	11月8日(金)	三観	三豊市立詫間中	四国	豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育 ～人間としての生き方を考える道徳科の授業の工夫～
4	学 校 図 書 館	10月31日(木) 11月1日(金)	三観	学校組合立三豊中	四国	自ら学び、心豊かな生徒を育成する学校図書館教育 ～生徒の学びと読書活動を支える手立ての研究～
5	学校保健	10月29日(火)	丸仲善	琴平町立琴平中	県	未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方 ～自らライフスタイルについて考え、改善する力の育 成～
6	特別支援 教 育	8月19日(月) 8月20日(火)	高松	サンポート高松	中四国	長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援 教育をめざして ～「自信と勇氣」をもたせる教育活動のあり方～
7	へ き 地	10月31日(木)	高小直	高松市立男木小・中	県	自分に誇りをもち、主体的に未来を切り拓く子どもの 育成 ～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生 かした学校・学級経営と学習指導の深化・拡充をめざ して～
8	学校事務	11月12日(火)	三観	観音寺市民会館	県	未来につなぐ ひろがる学校事務
9	進路指導	11月22日(金)	高松	高松市立玉藻中	県	主体的に未来を拓く生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を通し て～
10	学校給食	11月7日(木)	丸仲善	多度津町立多度津中	県	すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育のあり 方 ～学校給食を活用し、望ましい食習慣を身につけた生 徒の育成をめざして～

Ⅲ 研究報告

1 研究大会を実施した部会

生活を美しく豊かにする美術の学び

～ 生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして ～

美術教育研究部会

1 研究主題について

美術部会では、研究主題を「生活を美しく豊かにする美術の学び～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～」と設定した。思いを大切に、主体的に取り組む生徒、自ら考え自らを表現することの喜びを感受できる生徒の育成を図る。そのために、表現や鑑賞の幅広い造形活動を通して、創造する楽しさを味わわせ、自分らしい見方や感じ方を尊重させ、美術を愛好する心を育てたい。美術の学びが、豊かな感性を育み、よりよい生活を創造していくことにつながると考え、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

研究の重点課題は次の3点である。

- (1) 生活と美術をつなぐ教材の開発
- (2) 創造的な発想・構想力を身に付けさせる指導の工夫
- (3) 形成的評価を生かした指導の工夫

2 研究の概要及び大会内容

本年度は、高松支部において四国造形教育研究大会を開催した。また、夏季研修会では四国大会のプレ発表を兼ね、各支部からの研究発表を行った。

若年研修会では、鑑賞授業の参観を行い、討議会に参加し、鑑賞授業の技術向上をめざした。

(1) 香中研美術部会夏季研修会

- ① 日時 7月31日(火) 9:00～16:25
- ② 場所 高松市立高松第一中学校
- ③ 内容 各支部研究実践発表

学習指導要領の趣旨に即した教材開発及び授業研究に関する研修を行った。研究発表や討議、教材実技研修を通して教員の指導力・資質



図1 夏季研修会

の向上を図った。また、四国大会での高松支部からの研究提案の検討を行った。

(2) 四国造形教育研究大会事前研修会

- ① 日時 9月20日(木) 14:45～16:30
- ② 場所 高松市立香東中学校
- ③ 内容 研究授業・討議

四国大会のプレ授業として、授業の参観、検討を行った。

(3) 四国造形教育研究大会



図2 研究提案

- ① 大会主題
「感じる つくる つながる」
- ② 中学校部会研究テーマ
生活を美しく豊かにする美術の学び
～生徒の意欲を引き出す美術の授業づく

りをめざして～

- ③ 日時 10月25日（木）9:00～16:25
- ④ 場所 高松市立香東中学校
- ⑤ 内容 研究提案・研究授業・討議
ポスターセッション・記念講演

研究提案

提案内容	大会主題を踏まえた実践研究の視点について ・主体的に学ぶ意欲を高める題材の選出 ・主体的に学ぶ意欲を高める授業展開の方法 ・他者とのやりとりから得る、より深い学びの創出方法
提案者	中川 佳洋（紫雲中） 内原 良二（屋島中） 栗島 克浩（協和中）

研究授業

題材	表現（2年） 香東中のピクトさんをつくろう
授業者	宮本 由香（香東中）
題材	鑑賞（3年） 猪熊弦一郎の作品を鑑賞しよう ～五感でみつめる抽象絵画～
授業者	翠 さやか（香東中）

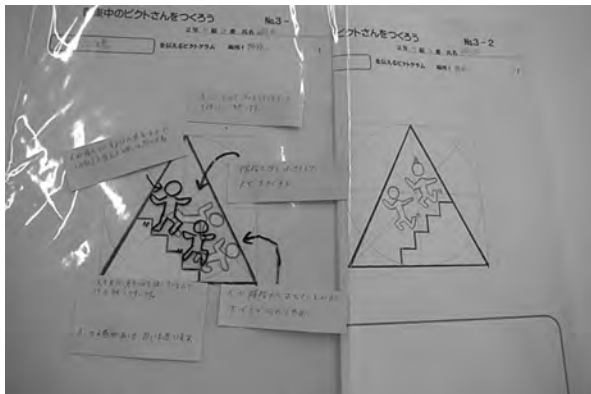


図3 「香東中のピクトさんをつくろう」で使用したアイデア検討のためのツール



図4 「猪熊弦一郎の作品を鑑賞しよう」板書

記念講演

演題	「美術教師の意味の場」 マルクス・ガブリエルから現場を見ると・・・
講師	コンテンポラリー・アーティスト 椿 昇氏

(4) 若年研修会

- 第1回 9月20日（水）高松市立香東中学校
四国大会事前研修会の授業参観・討議参加
- 第2回 10月23日（火）附属坂出中学校
お米のパッケージデザインの鑑賞授業参観・討議参加

(5) 委託研究

各郡市の代表者により、学習意欲を高める指導、グループ学習による学び合いについて研究を進めた。

3 成果と課題

今年度は、四国造形教育研究大会と、大会に向けた夏季研修会、事前研修会を通して、題材の開発、発想・構想力を身に付けさせる指導について、開催地の高松支部をはじめ、全支部が具体的に授業改善に取り組み、交流できた。新たに開発された題材、教具の記録、研究テーマに向けた授業改善の意識の向上が県内全体で共有できたことが成果である。また、四国大会では、ねらいに合わせた授業展開、生徒がねらいに迫るための手立てのある授業が実践でき、生徒が主体的に題材に関わり、互いに交流する姿が見られた。

課題としては以下のような点が得られた。

- ・ 表現活動における話し合い活動の持ち方やタイミング、深め方
- ・ 鑑賞活動における、生徒の鑑賞をより深める支援の手立て、感じたこと（主観）を言葉で表現するための手立て

四国大会で得られたこれらの成果と課題を財産として、より一層の授業改善に取り組みたい。

社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する技術・家庭科教育

— 学びの質を高める問題解決的な学習のあり方 —

技術・家庭科教育研究部会

1 研究主題について

「社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する」ためには、各自が主体的に問題に向き合い、お互いに関わり合いながら問題解決をしていかなければならない。そうすることで、一人一人が自ら可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出すことができる。そこで、その基礎として、主体的に学んだ知識・技能を活用したり、新しい方法を創造したりするなど、自らの学びの質を高める問題解決的な学習の工夫・改善が重要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要及び大会内容

【研究大会】

(1) 大会の内容

第56回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会（香川大会）、第31回香川県中学校教育研究会技術・家庭科部会研究大会が、平成30年10月31日（水）～11月2日（金）の3日間、香川県高松市の高松テルサ及び市内4中学校を会場に開催された。新学習指導要領への移行期1年目ということもあり、県内外から約500名に及ぶ参加者があり、熱心な研究協議や情報交換が行われた。

(2) 全体会

全体会の開会式では、工代 祐司教育長からご祝辞をいただくなどたくさんの来賓の方にご臨席いただき、香川大会の開会が宣言された。

次に、県の研究部から提案発表が行われた。次に示す研究構想図をもとに、研究主題を「社会の変化に対応し、よりよい生活を創造する技術・家庭科教育」、サブテーマを「学びの質を高める問題解決的な学習の在り方」と設定して研究実践を行い、その内容について提案が行われた。今回の研究では、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現や学習ユニットを取り

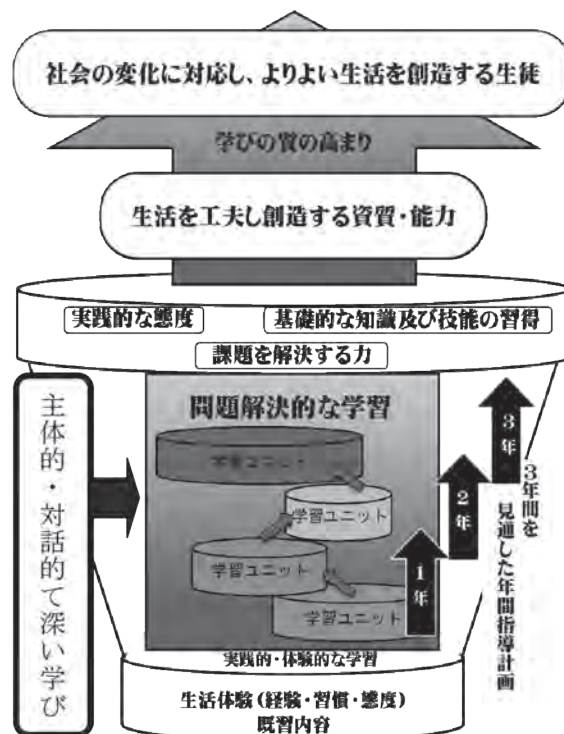


図1 研究構想図

入れた問題解決的な学習の展開や新たな課題につなげる振り返りシートの活用あり方について提案があった。

全体提案の発表ののち、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 上野 耕史先生、筒井 恭子先生から香川県の全体提案及び分科会提案等について指導・講評が行われた。両調査官とも新学習指導要領への移行期を見据えた香川の研究の意義と今後の研究の展望について述べられた。ご指導いただいたことを今後の研究に生かし、継続的に研究を続けていきたい。

<講演内容>

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 上野 耕史先生

「香川大会の価値 - 新学習指導要領改訂を踏まえて -」

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 筒井 恭子先生

「新学習指導要領における技術・家庭科家庭分野の指導」

(3) 提案分科会

技術、家庭の両分野で8分科会を設けて提案分科会を開催した。それぞれの分科会で県外一本、県内一本の提案が行われた。県外はそれぞれの県の研究テーマに沿ったものを、県内は全体提案に沿った内容について発表を行った。各発表とも新学習指導要領を意識した取り組みとなっていた。各分科会では提案発表だけでなく研究討議も行われ、質疑・応答も含め活発な意見交換が行われた。また、各県から指導助言者をお招きし、それぞれの提案に対して適切なお示唆をいただいた。今後の研究に生かし、深まりを持たせたい。

(4) 公開授業

表1に示すように高松市内および三木町の4中学校を会場として公開授業を行った。学習ユニットと主体的・対話的で深い学びを整理した授業を中心に公開した。対話的な学びとしてのグループ活動など生徒が学びを深めるために適切な授業の工夫を行いながら問題解決的な学習を展開した。振り返りシートも効果的に活用される場面も見られた。上野調査官にも各会場を視察していただきご指導をいただいた。

授業研究分科会では、公開授業や研究内容について、たくさんのご意見をいただいた。県内外の指導者の先生方からも授業について適切なお指導・ご助言をいただき今後の授業改善に生かしていきたい。

表1 公開授業

会場校	授業内容	授業者
三木町立 三木中学校	技術A 家庭B	長尾 徹一 武川 朱美
高松市立 勝賀中学校	技術B 家庭D	桃本 貴之 長谷 安佐子
高松市立 太田中学校	技術C 家庭C	平尾 高治 白井 道代
高松市立 高松第一中学校	技術D 家庭A	山下 敏也 キーマン 啓子

この他、本年度は、昨年度までの研究の成果と課題をふまえ、夏季研修会および事前研修会などでも研究を進めた。

【夏季研修会】

研究討議・指導講話など

中・四国研究大会（香川大会）に向けての研究の方向性を共有したり、質疑応答を行ったりして、研究テーマや指導技術の向上について討議を行った。

また技術・家庭の各分野の内容ごとに高松と各協力郡市とで授業や発表に向けての経過報告や意見交換なども行うことができた。

【研究大会事前研修会】

研究授業・研究討議・指導講話など

中・四国研究大会（香川大会）に向けて会場校での研究授業を行い、全体研究の方向性に沿っているか、提案性のある授業になっているかなど、討議会にて質疑応答を行った。

【若年研修】

教科の授業力リーダーの授業に参加し、研究授業・研究討議・指導講話などを行ったり、中・四国研究大会（香川大会）の事前研修会に参加して香川県の研究について理解を深めたりするなどの、若年教員の育成の場を設けた。

【委託研究】

各郡市ごとに委託研究委員を選定し、それぞれの郡市の実践から、委託された内容についての報告をまとめた。

3 成果と課題

第56回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会（香川大会）を通して、香川県の研究を大きく前進させることができた一年間であった。新学習指導要領移行期間の1年目ということもあり、目まぐるしい変化の中での研究となったが、研究を進めたことで、新学習指導要領を読み解き、共通理解を図りながら県内全体で大きな一歩が踏み出せたと感じている。

また、問題解決的な学習については、今後も研究の柱として取扱い、学びの質を高める実践を積み上げていきたい。そして、県内外の先生方からいただいた貴重なご意見やご指導を真摯に受け止め、平成33年度の完全実施に向けて実践研究を継続するとともに、9年後の中・四国大会香川大会につなげるように研究を深化させていきたい。

なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成

～ 話し合い活動を軸として ～

特別活動研究部会

1 研究主題について

情報化、都市化、少子高齢化など社会状況の変化を背景に、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足、規範意識の低下などが顕著になっている。このような状況の中、他者と意見を交わし、互いに協力しながら問題解決を自ら探っていける能力を身に付けることは、現代社会を生き抜くために欠かすことができないものである。学級や学校集団においても、自分の存在を実感できず、人と関わるのが苦手な生徒が見受けられる。さらに、自分の思いや考え、感情などを上手に他者に伝えたり、他者の気持ちを考えて行動したりすることができず、人間関係のトラブルや学校不適応を起こす生徒もいる。

そこで、特別活動における話し合い活動を軸に教科横断的な連携を図り、双方向での対話力や折り合いをつける力の育成を目指す。さらに、話し合いをもとに計画・企画したことを実践する場として、学校・生徒会行事を位置づけ、生徒が学級づくり・学校づくりの主体になることによって、他者と関わりながら課題解決にあたることの成就感や喜びを体験することが重要であり、個人としても集団としてもより良い成長につながると考え、上記の研究主題を設定し、研究を進めていくことにした。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月17日（金）
- ② 場所 さぬき市立さぬき南中学校
- ③ 内容
 - ア 各支部の実践発表
 - イ 研究大会に向けて中間発表
さぬき南中 教諭 山下 司
 - ウ 指導・助言

講師 香川県教育委員会義務教育課
主任指導主事 三野 健 氏

(2) 研究大会

- ① 期日 平成30年10月4日（木）
- ② 場所 さぬき市立さぬき南中学校
- ③ 研究の目標

ア 研究の内容

生徒が活力を持って取り組んでいる活動である学校行事・生徒会行事（「体育祭」「合唱コンクール」「読み聞かせ（1年）」「職場体験学習（2年）」「修学旅行を中心とした平和学習（3年）」など）を核として、その活動がさらに生徒の主体性や協働性を高められるようにする。そのために、特別活動等の内容や計画を見直し、その中に話し合い活動を取り入れ、アクティブ・ラーニングを強化し、学校行事・生徒会行事との連動を図る。

イ 身に付けたい力「社会人基礎力」

社会を取り巻く環境は、今、大きな変化の波を受けている。このような変化に対応できる社会人が求められており、そのような時代の要請を受け、経済産業省では、これからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力を「社会人基礎力」として提唱し、その育成の普及を図っている。「社会人基礎力」は「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つに大きく分けられる。また、その力に加え、公益社団法人経済同友会が「これからの企業・社会がもとめる人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」の中で、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力」を求めている。これら4つの力を「社会人基礎力」として捉え、中学生の発達段階に合わせて、本校生

徒の身に付けたい力とし、それらを以下のように整理した。



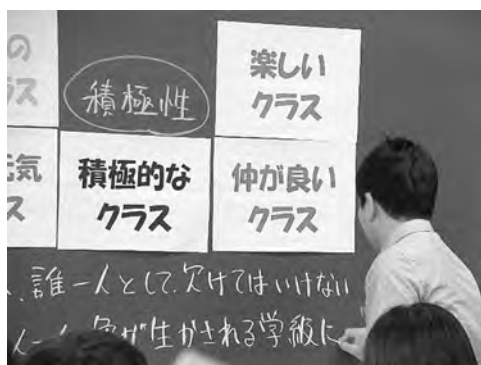
「取り組みを通して身に付けたい資質・能力」

④ 公開授業Ⅰ

ア 授業者 蓮井優教諭

イ 題材 学級力向上アクションミーティング

生徒たちが学級の状況と自分自身の行動を振り返る目を養うことを通して、所属する学級のよりよい生活づくりのために、課題を見出し、対策を考え、実行できる力の育成を目標としている。



「生徒と担任がクラスの現状について整理する様子」

ウ 授業討議

- ・ 「積極性」をテーマに、話し合い活動を行ったが、話し合いに挑む準備（机の向き、グループ、話し合いを行う主たる視点）に乏しかった。司会の2名と教師とのコミュニケーションも、授業内ではできていたが、事前の根回しが少なかったために行き詰まる場面（困った時に教師を見る）がやや多かった。
- ・ 「生徒に任せて見守る」ということが、とても難しいと感じた。授業者は介入しすぎたとおっしゃたが、自

分なら、もっと介入してしまうと思い、日頃の自分を反省した。生徒たちは、あんなにも自ら考えられるのだと、改めて感心させられた。

⑤ 公開授業Ⅱ

ア 授業者 蓮井良之教諭、太巻友里恵教諭、中多優介教諭

イ 題材 合唱コンクール縦割り練習会「たてわり合唱をよりよくするために」

たてわり合唱という共通の目的に向かって、異学年集団が協力し、PDCAサイクルに則して活動を進める。集団の一員としての自覚を持ち、互いの創意工夫を生かし、よりよい合唱に向けての合意形成を図るとともに中で、なかまと協働し、主体的に行動できる力の育成を目的としている。



「縦割り合唱での練習の様子」

ウ 研究討議

- ・ 生徒が主体となって、練習を進められていた。今日の授業までに先生方が計画を練り、生徒のリーダーでの計画を練る時間がしっかりと取られているのだろうと感じた。

3 成果と課題

特別活動の3領域に実践場を設定し、PDCAサイクルを意識し、話し合い活動を取り入れ、なかまと協働し、問題解決をする場を生徒たちに積極的に提供してきた。このことによって、生徒たちが主体的に行動できるようになったと生徒も教師も実感している。また、この取り組みをもとに、各校でも話し合い活動の実践研究を進めることができた。来年度に向けて、研究実践の分析をしっかりとやっていきたい。

自己指導能力を育てる生徒指導のあり方

— 対話による共感的人間関係に支えられた集団作りをめざして —

生徒指導研究部会

1 研究主題について

生徒が学校生活を送る中で「自己の存在感を実感」しながら「人間関係を形成」することで「自己実現を図る」ことが目的であると解釈することができる。そのために2つの大きな柱があると考ええる。

1つ目は、「自己実現を図るため」に「自己指導能力の育成」が不可欠である。「自己指導能力の育成」には、「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育てる」という生徒指導三つの機能を教育活動の中に取り入れ、生徒の育成にあたらなければならない学校教育は集団での活動を行えることが大きな特徴であり、「共感的人間関係を育成する」ことが特に可能となる。お互いを尊重しあう態度が身に付くことにより、生徒が安心して自分の意見が発言できたり、相手の考えを最後まで聞いて自分の考えを深めたりすることができ、好ましい人間関係につながり、豊かな集団生活を送ることにつながると考える。そのような集団の中で生徒が活動することで、残りの二つの機能についても、各学校の実態に合わせて育成のための取組を行うことで効果が期待できると考える。

2つ目は、新学習指導要領解説では現行の学習指導要領同様「生徒指導は学習指導と並んで重要な意義を持つものである」と示され、さらに「学習指導と関連づけながら、生徒指導の充実を図ること」が加わっている。学習指導において「分かる喜びや学ぶ意義」を生徒が実感できる指導技術の向上や指導方法や指導体制の工夫など授業改善を行い、普段の学習指導を充実させることの重要性が掲げられている。

そのため、「生徒指導」を充実させるためには「学習指導」についても共通理解の上、全職員で取り組んでいくことが重要である。「学習

指導においては「学びに向かう力・人間性等の涵養」が新しく加わり、とりわけ現在求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現には学習の中に生徒指導の三つの機能を取り入れることが重要である。中でも今回の研究の中心を「共感的人間関係の育成」とし、学習集団の質の向上を図りたいと考えている。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 夏季研修会

① 期日 平成30年8月17日（金）

② 場所 高松テルサ

③ 内容

ア 支部の実践発表

・三観支部の実践発表

高瀬中学校 教諭 齊藤 唯司

「教育相談体制の充実をめざして」

・丸亀支部の実践発表

東中学校 教諭 金崎 正禎

「問題対応型から健全育成型への転換をめざして」

・高松支部の実践発表

一宮中学校 教諭 上西 崇紘

「人権教育の視点を核とした生徒指導」

イ 指導・講話

講師 香川県教育委員会義務教育課

主任指導主事 若林 教裕 氏

ウ 研究大会中間発表

坂出市立東部中学校

教頭 出石 伸郎

(2) 研究大会

① 期日 平成30年10月30日（火）

② 場所 坂出市立東部中学校

③ 研究主題

自己指導能力を育てる生徒指導のあり方
～対話による共感的人間関係に支えられた
集団作りをめざして～

④ 内容

ア 研究授業

- ・社会科（1年2組）

「世界の諸地域 ヨーロッパ州」

（地理的分野 内容 B）

教諭 水谷健太郎

教諭 藤本達哉

- ・特別活動（2年2組）

「清掃活動の意義」

（学級や学校における生活づくりの参
画）

教諭 末澤綾子

- ・特別活動（3年団）

（ハートフルタイム・なかまと共に鍛
え合い、成長していこう～最終章～）

3年団職員

イ 提案発表

坂出市立東部中学校

教諭 寺岡 保子

研究の方向

- ・「わかる」「できる」喜びを実感でき
るようにするための授業改善
（主体的・対話的で深い学び）

- ・一人ひとりの生徒を大切にしたい取組
（人との対話・自尊感情の育成）

- ・集団や社会の一員として自己実現を
図るための取組
（自己との対話）

ウ 講演

講師 鳴門教育大学大学院

教授 阪根 健二 氏

演題「自己指導能力の育成をめざして」



エ 指導・講評

指導者

香川県教育委員会義務教育課

主任指導主事 久利 知光 氏

3 成果と課題

夏季研修会では3支部の代表による日ごろの研究や教育実践が多くまとめられ、参加者からの積極的な質疑もあり有意義な研修会であった。

坂出市立東部中学校での研究大会は300名弱という多数の参加があり、大変すばらしい大会であった。研究主題に基づいた教科指導や特別活動について指導案の作成や研究内容の検討等に全職員で積極的に協力して研究が深まったり、発信できたことが成果である。

また、運営面でご協力いただいた坂出・綾歌支部生徒指導研究部会に感謝を申し上げたい。

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成

～ 主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進 ～

メディア教育研究部会

1 研究主題について

情報化やグローバル化による社会的変化が、人間の予想を超えて進展している。このような時代にあっては、主体的に学び、物事を深く理解し思考することを通して、将来とのつながりを考えるなかで、自らがよりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくことが重要である。生徒が、自分の学びの意義や価値を実感し、将来へのつながりを意識したとき、さらに次の学びにつながる意欲が芽生えたと考える。そこで、「人、情報・知識、生き方」とのつながりを実感しながら「主体的・対話的」に学ぶことを通して、物事を深く理解し思考できるようにすることが、「学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成」につながると考えた。また、「主体的・対話的で深い学び」に、メディア教材やICT機器は有効な手段であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要及び大会内容

(1) NHK杯全国中学校放送コンテスト

- ① 香川県予選 7月27日(金)
NHK高松放送局(CD・DVD審査)
参加数12校
- ② 全国大会予選 8月5日、6日
香川県予選通過7校
- ③ 全国大会本選 8月18日
千代田放送会館2Fホール
県内入賞作品 朗読部門 入選1作品

(2) 夏季研修会

- ・日時 8月17日(金) 9:00～12:00
- ・場所 情報通信交流館eとびあ・かがわ
- ・内容
 - ① メディア教育研究大会の事前発表
丸亀市立綾歌中学校 教諭 登倉由佳
 - ② 指導講話 香川県教育委員会事務局
主任指導主事 三好一生 氏

- ③ 講演「子ども文化としてのメディア
～子どもとメディアの好ましい関係

を考える～」

NHK放送文化研究所メディア研究部

宇治橋祐之 氏



図1 事前発表の様子

丸亀市立綾歌中学校 登倉教諭より、第50回放送教育四国大会香川大会に向けた研究の取組を発表していただいた。生徒の実態を詳細に分析し、仮説に基づき全教員で研修を重ねている。大会では3本の授業が公開される予定であり、メディア機器や教材の特性を生かした授業が期待される。県教育センター三好主任指導主事より、県下のICT機器の整備状況も含め、新学習指導要領との関連等ご指導いただいた。本年もNHK放送文化研究所の宇治橋祐之氏を招聘し、NHK for Schoolをはじめ、放送教育番組について講演をいただいた。同Webサイトには教科指導から道徳・特別活動まで幅広い番組の映像がいつでも視聴できるようになっており、指導案やワークシート等もそろっている。これらの紹介と小学校や高校との関連について分かりやすく説明・指導していただいた。

- (3) 香中研メディア教育部会研究大会
(第50回放送教育四国大会香川大会)
・日時 10月25日(木) 10:00～16:25

- ・場所 中学校部会 丸亀市立綾歌中学校
全体会 綾歌総合文化会館アイレックス

・内容

ア 部会提案

丸亀市立綾歌中学校 教諭 登倉由佳

イ 公開授業・討議

学年	教科	題材名	授業者
1年	理科	光の屈折	落神安夫
2年	社会	中部地方	川井将太
3年	道徳	進路のゆくえ	林 真希

ウ 研究交流分科会

部会	提案者
教科部会	高知県高知市立青柳中学校 教諭 谷村博貴
	香川県綾川町立綾南中学校 教諭 大井章弘
道徳・学活・ 総合部会	愛媛県松山市立高浜中学校 教諭 安西大地
	香川県善通寺市立西中学校 教諭 竹本 弘



図2 研究交流分科会の様子

エ 指導助言

香川県教育センター

主任指導主事 三好一生 氏

香川県教育委員会事務局義務教育課

主任指導主事 土岐浩司 氏

オ 全体講演

「学びのパートナーに

～NHK for Schoolを活用して～」

NHK制作局第1制作センター

青少年・教育番組部チーフプロデューサー

古田尚磨 氏



図3 全体講演の様子

公開授業では、NHK for schoolの放送教材やタブレット端末などのICT機器を活用した学習指導が展開されていた。同校では学習状況調査などの分析結果に基づき、教員研修を計画的に実施し、様々な学習場面で機器を適切に活用する研究を積み重ねている。研究交流分科会では、県外2本、県内2本の発表が行われた。放送教材やタブレット端末を活用し、生徒の関心を高めたり、理解を深めたりする実践報告が行われ、大変参考になるものであった。全体講演では、NHK for schoolなど放送教材について、Webサイトや動画などを示しながら、活用方法等わかりやすく説明していただいた。

3 成果と課題

本部会では、今年の放送教育研究大会へ向けて、数年前から放送教材を中心に研修を積み重ねてきた。研究大会では、授業や分科会発表の討議で活発に意見交換が行われるなど、会員相互に研修を深め、有意義な研修の場となった。インターネットを活用した放送教材はこれからも拡充していくことが予想される。子どもたちの学習が、より魅力的で理解が深まるよう活用方法について研修を継続していきたい。

豊かな人権文化の創造をめざす人権・同和教育

人権・同和教育研究部会

1 研究主題について

人権・同和教育に関するこれまでの様々な取組と蓄積によって、人権尊重の理解と意識は高まりと広がりを見せているように思われる。しかし、依然として同和問題をはじめ多くの人権課題があり、国際化、情報化などの進展で新たな課題が生じ、問題はより複雑化している。これらの現状をふまえ、人権尊重の視点で貫かれた学校づくり（人権文化の創造）を展開し、生徒が自分・他者ともにかげがえのない存在であると認め合い、互いを尊重し合う集団づくりをしながら、人権課題解決に向けた意欲と実践力の育成を図りたい。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 夏季研修会

- ① 『自分に誇りをもち、認め合い、ともに生きようとする集団を目指して』

～差別と闘った先人の生き方に学ぶ～

高松市立塩江中学校 鳥井 徹

「デコ回し」（家々の玄関先で音曲に合わせて人形を操り、福を届けては米や祝儀をもらう徳島の伝統芸能）を継承しようとして立ち上がり、差別に屈せずたくましく生き抜く人の生き様を直接的な交流を通して学んだ。さらにそれを含めた様々な問題を、生徒・教職員が「もう一步自分ごととして」考える契機とした。（香同教大会でも発表）

- ② 『一人ひとりを大切に作る集団づくりをみざして』～自他の違いに気づくことができる生徒の育成～

まんのう町立満濃中学校

坂本 壘、下家 真由美

生徒が称賛される場を意図的に設定したり道徳や保健体育の授業を改善したりすることで、自他の良さに気づかせ自己有用感を向上させるとともに、互いに認め合うことのできる集団づくりに取り組んでいる。また、生徒を支える教職員集団をめざして、教職員の人

権・同和教育研修の充実に努めている。

（香同教大会でも発表）

- ③ 『交流から学ぶ』

～語り、認め、支え、高め合う集団づくり～

三豊市立豊中中学校 森 敏和

生徒・教職員・地区の人たちそれぞれが交流する場を大切にし、共に語り合い、他者理解や自己理解につなげ、人権感覚を磨いている。また、友だちの頑張りを称える『ダイヤモンド賞』、『生徒主体の班編成』によるリーダー育成、『学級人権宣言』の作成などの取組により、生徒が安心して思いを語ることのできる集団づくりにつなげている。

（香同教大会でも発表）

(2) 研究大会

共に考え、伝え合い、自他の良さや違いを認め合う生徒の育成

三豊市立和光中学校

- ① 研究主題について

ア 今日的課題から

「部落差別の解消の推進に関する法律」施行によること

イ 三豊市の現状から

三豊市における「人権・同和問題に関する意識調査」の結果によること

ウ 生徒の現状から

生徒へのアンケート結果によること

エ 人権・同和学习の状況から

差別解消への意欲と実践力につなげるために

- ② 研究内容

ア 学力向上

人権が尊重される授業づくり5つのチェックポイント

- ・授業規律
- ・学び合う場の工夫
- ・個に応じた指導の充実
- ・共感する姿勢と積極的な賞賛屋励まし
- ・振り返りの場の設定と充実

これら5つの視点で対話的な問題解決を取り入れた授業を継続し、なかまの良さを実感し、学びに向かう力と確かな学力につなげる。

イ 学級集団づくり

「日々の教育活動での助け合い」「鍛え合う集団づくり」「リーダー育成」「人権エクササイズ」を通し、他者と触れ合い、喜びを味わう場を設定するとともに、リーダーが中心となり学校全体で学ぶ雰囲気づくりを工夫し、お互いを認め合い高め合える関係を育む。

ウ 「三豊市人権教材集『人権』の活用」

「生徒が語り合う授業の実践」「保護者啓発」と通し、教材や人との出会いの中で生徒相互の意見交換の機会を持つことで、差別解消に向けた意欲と実践力を育てる。

③ 大会当日の授業

1年「人の値打ち」

(三豊市人権教育教材集『人権』より)

授業者 合田 麻美、山本 良子

- ・ 江口いとさんの思いに共感し、差別を許さない気持ちを持ち、自分の考えをきちんと書き、自分の思いを江口さん夫婦の前で語る。
- ・ 自分の生活を振り返る中で、自分の気持ちの変化を認めながら、これからの生き方を友人たちに語る。



2年「たたかいは炎のように」

(三豊市人権教育教材集『人権』より)

授業者 逢坂 千佳、笠嶋 裕志

- ・ 教科書無償化に至るまでの背景や、差別や困難に立ち向かいながら闘った人々

の熱い思いを知り、自分の意思を貫くことの大切気付くとともに、そこから自分が学ぶべきことは何かを考える。

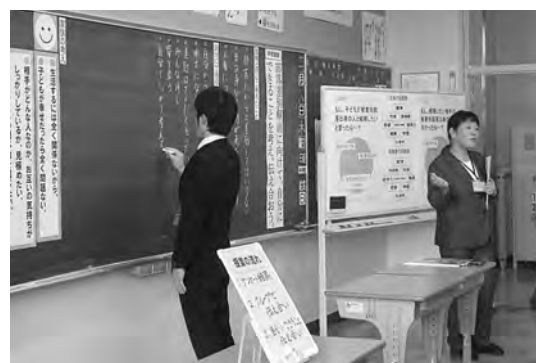


3年「峠」

(三豊市人権教育教材集『人権』より)

授業者 玉尾 恭子、藤岡 正仁

- ・ 結婚差別を通して部落差別の不合理さについて理解し、その差別を乗り越えるためには「仲間の支え」が大切だと気付く。
- ・ 友達や家族、教師と意見を交わすことによって、部落差別の不合理さを認識し、差別をなくしていこうとする意欲をもつ。
- ・ 森口先生との意見交流を通して、部落差別解消に向けて人と人とのつながりの大切さを実感する。



3 成果と課題

研修会・研究大会において、生徒の実態を多面的に捉え、各校の特色を生かした真摯な取組が報告された。また、参会者からは建設的な意見が出され、より研究を深めることができた。今後も生徒と共に学ぶ姿勢で「生き方を考える」人権・同和教育に取り組み、醸成された人権文化の創造につながるようにしていきたい。

生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教育の創造

— 言語を介して能動的にかかわる力を育てる国語授業の在り方 —

国語教育研究部会

1 研究主題について

来年度、第29回四国国語教育研究大会・中学校部会（香川大会）兼第31回香川県中学校教育研究会国語部会研究大会を高松市立古高松中学校で開催するにあたり、次期学習指導要領の方向性を視野におき、各郡市と連携して共通テーマで研究を進めていくこととし、本主題を設定した。

2 研究の概要

本年度は、主に夏季研修会で講演会、各支部の実践発表、ワークショップを開催した。授業づくりのワークショップ5講座を行い、今後の授業のための良い研修の機会となった。

(1) 研究委員会

高松支部を核に、研究の方向性と具体的な授業について検討を重ねた。

(2) 夏季研修会

① 講演

松下佳代先生（京都大学教授）に「国語教育における深い学びの可能性」という演題でご講演いただいた。

② 各郡市発表

高松支部、小豆支部の授業実践を発表した。

③ ワークショップ

ア テーマ「思考ツールで『深い学び』」

講師 山本茂喜先生（香川大学教授）

イ テーマ「国語科ジグソー学習入門」

講師 佐藤明宏先生（香川大学教授）

ウ テーマ「新学習指導要領に基づく授業改善」

講師 土岐浩司先生（香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事）

エ テーマ「深い学びの国語科授業づくり」

講師 川田英之先生（香川県教育委員会事務局西部教育事務所主任指導主事）

オ テーマ「墨・朱墨2種の筆ペンを利用した書写授業の方法」

講師 前田秀雄先生（岡山大学講師）



【講演及びワークショップでの研修の様子】

(3) 委託研究部会

県教委研究委託を受け、昨年度に引き続き、「主体的・対話的で深い学び」の視点から子どもに身に付けさせたい力を踏まえた授業づくりについて、実践資料を持ち寄り、検討を重ね、まとめた。

(4) 若年研究部会

2～4 経教員を対象に、綾川町立綾南中、附属高松中での授業研究会等、4 回の研修を行った。また、郡市の指導の先生との徒弟関係組織を整備し、研修の機会をもった。

3 成果と課題

生徒が意欲をもって学習に取り組み、言葉の力を身に付けるための国語科学習指導について、「主体的・対話的で深い学び」の視点から研修を深めることができた。今後も質の高い研修と研究を進め、県全体の授業改善と指導力の向上を図っていきたい。

未来社会につなぐ社会認識の構築

～ 授業力の継承、そして創造 ～

社会科教育研究部会

1 研究主題について

社会科部会における本研究主題は、平成23年に起きた東日本大震災を教訓として、平成24年度の全国中学校社会科研究大会香川大会(以下、全中社香川大会)で設定されたものである。未来社会の課題について、ただ内容を知っておくだけではなく、その課題をしっかりと認識し、より安全で誰もが幸福になれる社会をつくらうとする意思を持つ生徒を育成することが教育には求められている。そこで、社会科において、社会認識をしっかりと深める授業実践を継続的に行う必要があると考え、全中社香川大会の研究主題を引き継いでいる。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 研究の概要

教員の授業力の向上を図る研究を継続しながら、研究部会の分け方を三分野(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)に発展的に改善する。本年度の研究項目として、社会科授業力を統合した深い学びの実現をめざす。その中で、概念探究過程または意思決定過程の学習指導過程を核とした授業実践をし、社会認識の構築、言い換えれば深い学びの実現を図っていく。

(2) 夏季研修会

① 2020年度の県研究大会に向けて全体提案・分野別提案及び質疑応答

〈全体提案〉

提案者：宮脇 隆文 教諭(宇多津中)

〈地理的分野〉

提案者：土佐 準 教諭(大川中)

〈歴史的分野〉

提案者：井原みゆき 教諭(白鳥中)

〈公民的分野〉

提案者：村上 誠一 教諭(長尾中)

② 国土地理院専門職の方による講話

③ 各郡市の実践交流

各郡市から県の研究に沿った実践事例が報告された。資料やワークシートなどの教材及び指導過程が、若年者の先生方に参考となった。



[実践交流会の様子]

④ 講演

「学ぶ社会科から学び方を学ぶ社会科へ～香川県中学校社会科研究会の歩み(初期)～」

香中社OB 玉井 一郎 先生

「地理的見方・考え方を生かした地域研究の在り方～古代讃岐の社寺の数と、どう向き合うのか～」

香中社OB 森田 武雄 先生

(3) 委託研究部会

県教委研究委託を受け、「さぬきの授業基礎・基本」から「主体的・対話的で深い学び」の実践資料を持ち寄って検討し、まとめた。

(4) 若年研究部会

2～4経教員を対象に、附属高松中、土庄中での授業研究会を行った。討議会では、若年教員による活発な話し合いが行われた。

3 成果と課題

これまでの社会科部会での研究の積み上げをもとに、分野ごとに実践を行うことで、深い学びにつながる各分野それぞれの課題も明らかになった。

今回、明らかになった課題を手がかりにして、今後も深い学びに向かう研究を継続して行く必要がある。

数学的に考える資質・能力を育成する数学教育の展開

— 授業力向上をめざして —

数学教育研究部会

1 研究主題について

事象を数学的に捉え、考えることのできる生徒の育成を目標として主題を設定した。生徒の学力を確かなものにするためにも教員の授業力向上が欠かせないものであると考え、サブテーマを「授業力向上をめざして」とした。夏季研修会及び若年研修会において研修を進めるとともに、支部ごとに昨年度の研究の成果と課題をふまえた研究テーマを設定し、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

2 研究の概要

(1) 各支部の取組

[高松] -話し合いの場を設けた授業の工夫-
関数領域での話し合いの場を設けた授業づくりについての研究を進めた。

[丸亀] -確かな学力をつけるための授業改善-
生徒の基礎学力の向上のためには、一層の教師の授業力向上が必要と考え、わかる授業のための授業の指導や支援の工夫についての研究を進めた。

[坂出・綾歌] -振り返り活動を生かした授業づくり-
生徒の学びに直結するような学習課題のあり方や振り返りに焦点をあてた授業づくりについての研究を進めた。

[小豆] 「活用する力をはぐくむ数学教育の展開-表現力を育む学び合いの場の工夫」-
数学の有用性が実感できたり、自分の考えを説明し合ったりできるような授業実践の研究を進めた。

[さぬき・東かがわ] 「基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指して」-
新学習指導要領の内容に即した授業内容の検討を通して-データの活用(資料の活用)領域に重点を置き、「批判的な考察」をキーワードに新学習指導要領での内容に即した授業づくりに関する研究を進めた。

[仲多度・善通寺] 「活用する力をはぐくむ数学の授業づくり」-
数学的活動を大切にして-自分の解決した方法を振り返って、考えを深めたり、既習の内容を利用し、よりよく説明したりできる生徒の育成を目指し、授業実践について研究を進めた。

[三豊・観音寺] 「活用する力をはぐくむ数学教育の実践」-
図形領域における数学的活動の充実を目指して-図形領域に重点を置き、数学的活動の充実を目指して授業づくりについての研究を進めた。

(2) 夏季研修会

11月の中国・四国大会で発表予定のさぬき・東かがわ支部、仲多度・善通寺支部による研究発表が行われ、県教委事務局義務教育課の清水一郎夫先生に指導・助言をいただいた。次に、金沢大学人間社会研究域学校教育系教授大谷実先生に「数学的に考える資質・能力の育成:新学習指導要領で大切にしたいこと」の演題で講演をいただいた。新学習指導要領で言われている、数学的に考える資質・能力とはどういったものであるのか、そのために教師がどのように考えていけばよいのか、授業を作っていけばよいのかの具体例を挙げていただきながら、説明していただき、示唆に富んだ内容であった。

3 成果と課題

授業改善を通して、数学的に考える資質・能力の育成の研究を進めてきた。県全体で行う研修や各支部の研修で、教員の授業力の向上に繋がられてきた。「深い学び」についてさらに授業改善が図られるよう研究を進めていきたい。また、数学的な資質・能力の育成を図るために、数学的活動の充実や若年教員の研修の充実に努めていきたい。

進んで自然とかかわり、探究し、学びを実感できる理科教育

～ 進んで自然とかかわり、科学的に探究する生徒の育成 ～

理科教育研究部会

1 研究主題について

時代の変化に対応すべく、新学習指導要領では、各教科において育成すべき資質・能力が明示された。この資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、授業改善を推進していくことが求められている。その鍵として挙げられているのが、授業のなかで「見方・考え方」を働かせることである。理科においては、課題の発見、追究、解決といった探究の過程を通じた学習活動を行うことが重要であり、それぞれの過程において、どのような「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付けることをめざすのかを明確にし、指導の改善を図ることが必要である。これらのことを踏まえ、理科部会では、生徒が主体的に自然を探究するなかで理科の見方・考え方を働かすことのできる授業づくりを行い、科学的に探究する力（資質・能力）を育成することをねらいとし、上記の研究主題を設定した。

2 研究の概要

◆ 夏季研修会

本年度の夏季研修会は、講演と研究についての全体提案、各郡市研究経過報告、実験観察講習会を以下の要領で開催した。

(1) 講演

比治山大学 教授 鹿江宏明先生より、「生徒が主体的に取り組みたいと感じる課題設定の工夫～日々の理科授業や防災教育の事例をもとに～」という演題で、具体的な実践事例を交えながら講演していただいた。

(2) 分科会中間報告（各郡市提案者より）

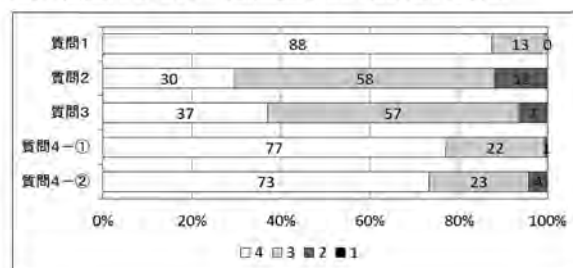
来年度の中国四国中学校理科教育研究会香川大会の分科会発表にむけて、各郡市の代表者による領域別の研究経過報告を行った。

(3) 実験観察講習会（8講座で県内教員が担当）

(4) 指導 香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 若林教裕 先生

(5) 参加者のアンケート結果

質問1：鹿江先生の講演内容は、参考になりましたか。
質問2：全体提案の内容はよくわかりましたか。
質問3：領域別の分科会は、先生方の研究に活かされたか
質問4：実験観察研修会に関して ①自分の勉強になった ②授業で活用できそうだ



◆ 若年研修会

(1) 第1回若年教員研修会（附属高松中学校）

【公開授業】第1学年「植物のくらしとなかま」
授業後に研究討議会や指導案交流会、教材紹介などの研修を行った。

(2) 第2回若年教員研修会（綾川町立綾南中学校）

【公開授業Ⅰ】第2学年「気象観測と雲のでき方」
【公開授業Ⅱ】第1学年「物質の姿と状態変化」
授業参観後、研究討議会を行い、見方・考え方を働かせた授業のあり方について、意見を交流した。

◆ 委託研究

県教委研究委託を受け、「主体的・対話的で深い学び」の実践事例を持ち寄って検討し、それらを資料としてまとめた。

3 成果と次年度の課題

夏季研修会の講演では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、課題設定にどのような工夫ができるのかについて、具体的に5つの視点を示し、説明していただいた。参加者からは「具体例や資料が豊富でわかりやすかった。良い課題設定ができるよう取り組もうと思う。」という前向きな感想が多くよせられた。

来年度の中国四国中学校理科教育研究会香川大会に向け、より良い提案ができるよう、坂出・綾歌支部を中心にさらに研究を進めていきたい。

つながる瞬間

～ 自ら学び、感動を共有する音楽学習をめざして ～

音楽教育研究部会

1 研究主題について

「つながる瞬間」とは、「生徒が音楽の美しさと出会う瞬間」、「生徒が他者との交流を通して音楽のよさを再発見する瞬間」のことをさす。この「つながる瞬間」の実現をめざした授業によって、生徒一人一人の音楽に対する価値意識が構築され、さらに、そこで得られた感動をなかまと共有することにより、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度が育つと考える。

授業において「主体的・対話的で深い学び」を追究し、「つながる瞬間」を実現することによって、中学校音楽科の目標である「音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」ことに迫っていけるのではないかと考えた。

2 研究の概要

(1) 研究推進の方向

「つながる瞬間」を実現するために、中央教育審議会（平成28年12月）で示された「主体的・対話的で深い学び」に着目した。中でも「子供たちが『どのように学ぶか』という学びの質を重視した改善を図っていくこと」という部分に着目し、学びの質を重視した授業改善の工夫として以下の3つの視点で研究を進めることにした。

- ① 「音楽的な見方・考え方」を働かせる学習指導の工夫
- ② 対話的な学びを促す学習活動の在り方
- ③ 一人一人の学びの過程や成果を把握する評価の在り方

特に、高松支部を中心に、2020年度の研究大会に向けて、「音楽的な見方・考え方」を働かせる学習指導の工夫、対話的な学びを促す学習活動の在り方、ICTを活用した学習指導の工夫で研究を推進している。

(2) 夏季研修会

今回の夏季研修会では、講師に国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 臼井 学 先生をお迎えし、「新学習指導要領の実施に向けて」と題してご講演いただいた。新学習指導要領の趣旨を理解するために知っておきたいこと、変更された内容の示され方、音楽科における知識の種類などを、分かりやすいご説明を拝聴することができた。また、目指す授業について、具体的に授業の様子をイメージできるようポイントを示しながら分かりやすくご講演いただき、有意義な研修となった。

(3) 若年研修

本年度の若年研修は、第1回目では和楽器の授業参観及び討議を、第2回目では合唱における表現の工夫の授業参観及び討議を行った。

授業討議後には、若年の先生方の授業における悩み等を解消するための意見交換や合唱コンクールなど教科に関わる行事の情報交換を行い、日々の実践につながる研修となった。

(4) 研究委託

各郡市の代表の研究部員から「主体的・対話的で深い学び」の実践を各郡市の研究部員が持ち寄り、全員で検討した。

3 成果と課題

昨年度、中国・四国音楽教育研究大会香川県大会を終え、今年度は県の研究大会に向けて動き出した一年となった。計画的に研究を進め、新学習指導要領へのスムーズな移行につながるよう努力を進めていきたい。そして、若年教員が増えていることもふまえ、音楽科教員一丸となって授業力向上を目指していきたい。

健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する 保健体育学習の創造

保健体育教育研究部会

1 研究主題について

社会がいかに変化しようとも、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するためには、自他の運動や健康についての課題を自ら発見したり、課題解決の道筋を立て解決に向けて取り組んだりでき、そして一人一人が運動や健康の価値を見出していくことが大切である。すべての生徒が学ぶ意義を実感できる保健体育学習をめざして、本教科の在り方を問い直す。

【各支部の研究の概要について】

2 研究の概要

【夏季研修会について】

本年度は岡出美則先生（日本体育大学スポーツ文化学部教授）をお招きして「新学習指導要領に求められるもの－保健体育は何を保障するのか－」というテーマのもと、これからの保健体育学習のあり方についての講話・演習を行った。保健体育科の課題やこれから求められる授業づくりについて、グループ演習を交えながら意見交換を行い、研究を深めることができた。

支 部	研究の概要
小 豆	「なかまとともに楽しく活動し、高め合う体育学習」をテーマに、器械運動（マット運動）の研究授業を行った。自己の技の課題をタブレット端末で確認したり、言語活動を通して技を習得したりし、「できた」という達成感を味わえる授業の研究を進めた。
さぬき 東かがわ	平成29年度研究大会発表で課題となった「意図的な話し合いのために教師の引き出しを増やす。」「話し合い活動を通して『何を学ばせるか』を整理する。」などの研究を進めた。「ネット型（バレーボール）」で研究授業を実施し、授業討議を行い、成果・課題を整理した。また、新学習指導要領について情報交換を行い、さぬき・東かがわ支部で共通認識をすることができた。
高 松	今年度は、北ブロック・南ブロックともに球技「ゴール型（バスケットボール）」の授業を行った。授業内容を検討する中で、生徒自身が学びを感じながら授業に取り組むためには、視覚からの情報が効果的であると考えた。北ブロックの授業では、「いいね！ポイント」をホワイトボードに貼り、プレイヤーと観察している生徒ができるだけ同じ評価につながることに重点を置いた。また、南ブロックの授業では、ゲームスコアやボール軌跡図のデータを分析することにより、話し合い活動も活発にさせた。
坂 綾 出 歌	生徒が主体的な学びの中で基礎・基本を習得し、協働的な学びの中で、自己有用感や運動の楽しさなどを実感し、なかまとともに学ぶ喜びを味わうことができるような保健体育学習のあり方を研究した。
丸 亀	練習やゲームなどを通して、仲間との関わりの中で、運動の楽しさや喜びを味わい、グループ内で責任を持ち安全に留意させた。そして、自らの課題に対して、自分やグループで考えて学習に取り組ませた。
仲 多 度 善 通 寺	基礎・基本を定着させ、「できる」「わかる」ことを実感させることに焦点を当てて、教材の選択や場の工夫、学習形態の在り方などについて研究を進めた。今年度は、グループ学習などを通し、教え合い・学び合う場面を取り入れた授業研究を実践した。課題をはっきりさせて、意図的なしなかけを用意することが活動の活性化につながった。
三 豊 観 音 寺	「対象・他者・自分」とつなぐことに焦点を当てて研究した。IST機器の活用により、課題の明確化、グループ活動の活性化につながり、生徒が主体的に授業に取り組む姿が見られた。機器の確保や事前準備の面で課題が残った。

グローバル社会に求められる英語教育のあり方

～ 主体的・対話的で深い学びを実現する英語の授業を旨として ～

英語教育研究部会

1 研究主題について

英語部会では、これまでの研究を土台としながら、新学習指導要領に沿った授業の改善・工夫を行い、グローバル社会に求められる英語教育のあり方について研究を行ってきた。

具体的には次の3つの内容を柱として研究を進めた。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を旨とした授業改善
- (2) CAN-DOリストの効果的な活用
- (3) 小学校英語とのつながりを意識した言語活動の工夫

身に付けた知識・技能の定着を図るために、目的・場面・状況を明確にして実際のコミュニケーションの場面に近い言語活動を設定したり、CAN-DOリストを活用しながら指導・評価方法の工夫や改善を図ったりした。また、様々な言語活動において、小学校での学習内容を自然な文脈の中で繰り返し使用させるなどして、小・中の接続がスムーズになるよう工夫した。

2 研究の概要

(1) 春季研究会

6月12日（火）、琴平町立琴平中学校、香川県立琴平高等学校で開催された。本年度、中高あわせて100名を超える会員が、中学校と高等学校の授業を参観し、それぞれの授業のあり方について考えることができた。また、東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授の根岸雅史先生による講演では、CAN-DOリストを用いて「話すこと」の指導と評価をどのように行うかについて、詳しくご説明して下さった。

(2) 夏季研修会

7月31日（火）、丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスにおいて平成30年度香川県中学

校英語科教員夏季研修会が開催された。県内英語科教員等約250名が参加した。本年度は、香川県教育委員会と協力して、英語科教員の英語力・指導力向上を目的とした研修を行った。また、講師として、株式会社インタラックより先生方をお招きして研修を進めた。

午前中は主に、「英語力向上の為に必要な勉強法」についてご講演をいただいた。実際にTOEICの問題を提示していただきながら、ListeningやReadingに対する具体的な対策について教えていただいた。

午後からは、「小中連携を意識した英語授業～豊かな表現力を育成するための授業づくり～」のテーマのもと、小学校で触れる英語表現を教えていただいたり、小中の学習指導要領を比較しながら内容を詳しくご説明していただいたりと、非常に参考になるご講演をいただいた。

(3) 若年研修会

2経～4経の若年教員の授業力向上に向けて、附属坂出中学校、さぬき市立長尾中学校において研究授業、討議、ワークショップ等を行った。若年教員からの授業や日常の悩みについて多くの質問がでた。他校の教員と交流することで、有意義な研修となった。

3 成果と課題

本年度より新学習指導要領に沿った研究テーマを設定し、生徒の学びが深まるような授業実践に取り組んできた。今後も引き続き、研究テーマに迫りながら、提案につないでいきたい。

また夏季研修会のアンケートから、「他校の先生方との情報交換、授業内容の検討などの時間も設けて欲しい。」といったご意見もいただいたので、アンケート結果を参考にしながら、今後の研修内容についても検討していきたい。

養護教諭の専門性の深化をめざして

— 時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる —

養護研究部会

1 研究主題について

現代的健康課題は、複雑多岐に深刻化しており、このような現状から、平成27年12月の中央教育審議会答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策」の中で、養護教諭の専門性や健康相談における重要な役割、チームとしてのコーディネーター的な役割が示された。また、これまで以上に学校内外との連携・協働して学校を支えていく中心的な存在になることが求められている。

一方で、学校現場では急速な教員の世代交代の時期を迎えて、養護教諭は同職種間の専門的な知識やスキルの伝承、校種間異動による校内組織や健康課題、保健室経営の在り方の違いによる戸惑いや不安などの課題もある。

そこで、今年度から研究主題を「養護教諭の専門性の深化をめざして —時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる—」と設定し、専門性の深化を専門性の深まりと専門性の拡大ととらえ、研究を進めることにした。

2 研究の概要

- (1) 高松支部—時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる—班別研修の他に、先輩養護教諭から学んだり、けがの対応と救急処置の実技研修を全体研修で行ったりして、スキルアップを図っている。
- (2) 坂出・綾歌支部—時代の変化に対応した養護実践を求めて—スマホ、携帯等の実態調査からディアの影響とメンタルヘルスについて情報交換や実践を積み重ねている。
- (3) 丸亀支部—時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる—救護の現状と養護教諭の対応、改善点をまとめ、市中体連事務局に提出した。部活動専門部長の会にも同席して、次年度に向けて協議し、共通理解を図った。

- (4) 仲多度・善通寺支部—時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる—睡眠習慣を中心に、支部の全学校でアンケートを実施するとともに、睡眠指導の実践をしている。
- (5) 三豊・観音寺支部—現代的な健康課題に対応した養護実践の構築—フィジカルアセスメント研修、OJCシートや保健指導資料を作成し、実践交流を深めている。
- (6) さぬき・東かがわ支部—多様化する健康課題に対応した養護教諭の実践力の向上—生徒の気になる行動の理解と対応の研修や虐待早期発見のためのチェックシートを作成した。
- (7) 小豆支部—中学生の特性をふまえた保健室経営—小児生活習慣病の予防と食生活について研修し、家庭や地域の関係機関と連携して、取り組みを続けている。
- (8) 夏季研修会—教職員の健康管理とメンタルヘルスに重点を置き、有意義な研修を行った。

県教委健康福利課の副主幹黒田実由記先生に「学校における労働安全衛生管理について」講演をいただき、メンタルヘルス対策における衛生管理（推進）者としての養護教諭の役割を法的根拠からも理解することができた。

臨床心理士の廣田邦義先生からは、「生徒の問題行動と養護教諭のかかわり方」を学び、校内でのケース会の重要性を再確認した。

NPO法人日本健康運動士会香川支部の中村麻紀先生から「チェアエクササイズ—体ほぐし体操」の演習を受け、リフレッシュできた。

3 成果と課題

今年度はサブテーマを変えての一年目だが、各支部が課題を設定して、積極的に取り組んでいる。今後はもう少し研究内容を焦点化し、研究主題の養護教諭の専門性の深化につなげていきたい。

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育

道徳教育研究部会

1 研究主題について

近年、グローバル化の進展や情報通信技術の進歩に伴って新たな問題も発生している。また、急激な少子高齢化の進行や予想困難な自然災害の発生など、日々、社会は目まぐるしく変化している。このような社会に生きる若者に求められているのは、新たな課題に向き合い、自分の頭でしっかり考えて他者と協働しながら解決策を生み出していく力である。こうした力を育成するためには、一人一人が道徳的価値の理解を深め、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながらよりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である。

2 研究の概要

(1) 研究の柱

- ① 道徳科の指導の充実と評価の工夫
- ② 道徳科と他の教育活動との関連
- ③ 道徳教育と家庭・地域社会との連携
- ④ 道徳教育の指導体制と指導諸計画

(2) 夏季研修会（平成30年8月17日）

第1分科会テーマ

「道徳科の指導の充実および評価」

平成27年度より、県のアクティブ・ラーニング研究推進モデル校の指定を受け、平成28年度より、道徳の時間においても学び合いの場を授業の中に積極的に設定する視点を取り入れた。授業研究等の実践では、話し合いを活性化させ、主体的に取り組む道徳の指導の充実を図った。

（観音寺市立観音寺中学校）

第2分科会テーマ

「道徳科と他の教育活動との関連」

インクルーシブ教育の視点を教員が共通理解することで、日常生活における生徒同士の

関係づくりや、生活習慣の向上に良い影響をもたらす結果となった。さらに、教員が語り合う場を重ねる中で、全教員が「学び合いに学ぶ」協働的なシステムを構築でき、教員がつながる集団となることで、教員の意識の変革を図った。

（綾川町立綾上中学校）

第3分科会テーマ

「道徳教育と家庭・地域社会との連携」

各学年団共通の教材を用いて授業を行うまでの過程で、指導案やワークシートを作成し、模擬授業を行った。職員間で意見交換しながら、みんなで授業を創り上げていくことにより、道徳教育に対する苦手意識の軽減や、若手教員に関しては、授業づくりの参考となった。また、参観の感想を保護者や小学校の教職員に書いてもらい、後の授業改善や校内掲示の工夫を図った。

（高松市立古高松中学校）

3 成果と課題

今年度は夏季研の課題別分科会の研究内容の検討や、来年度に行われる四国大会に向けての具体的な計画を行った。道徳科の実施に向けて各校で準備を進め、平成31年度から確実に全教員で実施できる指導体制や評価方法を検討していくことが今後の課題である。

豊かな心と学ぶ力を育てる学校図書館教育

学校図書館研究部会

1 研究主題について

読書には「豊かな心」を育てるとともに、学校図書館を中心に据えた「学ぶ力」を育成するという大きな役割がある。

また、学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を持ち、全ての教科、全ての教育活動において計画的・効果的に活用されることが望まれる。

このようなことから、学校図書館部会では、生徒たちがよりよく生きるための「豊かな心」と「学ぶ力」を身につけられることを目的とし、図書館教育を進めたいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

① 期日 平成30年8月17日（金）

② 場所 ユープラザうたづ

③ 内容

ア 研究発表校による中間発表

(来年度の四国大会に向けて)

「自ら学び、心豊かな生徒を

育成する学校図書館教育」

三豊市観音寺市学校組合立 三豊中学校

教諭 綾 里美

イ 四国大会分科会についての協議

(3分科会に分かれて)

I 本と学びをつなぐ学校図書館

II 豊かな心を育む読書活動

III NIEが育む力

④ 参加者 59名

三豊中学校の中間発表では、生徒の学びと読書活動を支える手立てとして①豊かな読書へ誘う支援の工夫（情報発信）、②豊かな読書を支える環境整備の工夫、③図書及び学校図書館を使った授業改善の工夫の3つの視点

から、現在取り組んでいることを紹介していただいた。特に③の授業改善の工夫では、国語・理科・美術の教科の実践だけでなく、人権・道徳や学年団ごとの学習活動（朝学習・総合学習）での実践も紹介され、「学習・情報センター」としての学校図書館の活用のしかたを広く提案していただけた。

来年度四国大会についての協議では、各分科会テーマに沿って来年度分科会担当地区の先生方を中心に、各校の実践報告を行い、分科会発表内容の検討が行われた。



【分科会別協議】

3 成果と課題

学校図書館はこれまで「読書センター」としての機能が重視されていた時期が長く、「学習・情報センター」として十分に活用されるには、まだまだ研究が必要である。しかし、地域差はあるが、県内の学校図書館司書の配置中学校数が増え、それにともない授業実践事例もかなり増えてきている。

今回の三豊中学校の中間発表及び夏季研修会参加校の実践報告は、「学習・情報センター」としての学校図書館の充実に向けて、各校の先生方が真摯に取り組んだ結果だと考える。

来年度の四国大会に向けて、さらに「学習・情報センター」としての機能の活用が図られるよう、生徒の学びを充実させるための研究実践を継続していきたい。

未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方

— 自らライフスタイルについて考え、改善する力の育成 —

学校保健研究部会

1 研究主題について

豊かな生活、情報社会の中で、現代の子どもたちは、様々な条件の中から正しい答えや自分に合ったものを考え選び抜く力が求められている。健康教育に関しても同様であり、特に自立へ向かう中学生の時期にとって、何をどのような視点で選び実行すべきなのかという基準（健康観）を身に付けることは、将来をより健康に生きていくために重要であると考えている。

そこで本部会では、研究主題を「未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方」とし、サブテーマを「自らライフスタイルについて考え、改善する力の育成」としてどのような機会を活用し指導や支援を行うべきなのか平成31年度の研究大会に向け担当支部を中心に実践研究を進めていくことにした。

2 研究の概要

(1) 各支部での取組

学校内外での「自ら考える」をキーワードに各支部でテーマを設定し、研究実践を行っている。平成31年度研究大会担当の仲多度・善通寺支部を中心に記載する。

【仲多度・善通寺】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健の在り方—自らライフスタイルについて考え、改善する力の育成—
ア. 「食に関する指導」についてBDHQ（食事質問票）のアンケートを実施した。このアンケートにより生徒の実態、変容、課題等を把握し、生活改善に役立てるようにした。

イ. 各校における保健教育の推進し睡眠についての講話や、外部講師による「いのち」「喫煙防止」「運動」についての講演に関する指導など、生徒の今の生活に視点をおいた学習指導を実践した。

【小豆】未来をより健康に生きる生徒の育成—中学生の生活習慣と心身の健康について—

【さぬき・東かがわ】未来をより健康に生きるための保健教育の創造—生徒の気づきを促し、健康観と実践力を育てるための指導の工夫—

【坂出・綾歌】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方—自らライフスタイルについて考え改善する力の育成—

【丸亀】未来を豊かですこやかに生きるための学校保健の在り方—自らライフスタイルについて考え改善する力の育成—

【高松】未来を心豊かで健やかに生きるための学校保健のあり方—健康的なライフスタイルについて考え、実践する力の育成—

【三豊・観音寺】未来をより健康に生きるための保健教育の創造—健康的なライフスタイルの確立をめざした指導の工夫—

(2) 夏季研修会

①指導講話

「学校保健の動向と課題について」
香川県教育委員会事務局保健体育課
主任指導主事 棚田 美佳 氏

②実習

「アンガーマネージメント」
高松太田社労士事務所
代表 谷川 由紀 氏

3 成果と課題

夏季研修会では、棚田主任指導主事より熱中症予防対策と、予防すべき感染症、児童虐待、体育活動中の死亡事故と初期対応（心肺蘇生・AED）について指導助言をいただき、各学校での危機管理について改めて考える機会となった。また、アンガーマネージメントでは感情（特に怒り）との正しい向き合い方、コントロール方法の実践を行った。

長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして

— 『自信と勇気』を持たせる教育活動のあり方 —

特別支援教育研究部会

1 研究主題について

本年度も研究主題を「長期的な視野に立ち、共に高め合う特別支援教育をめざして」と設定した。また、生徒が義務教育を卒業し、進学や就職を迎える際に、自信をもって新たな社会に進み、勇気をもって夢を追うことができる力を育成することが、担当者としての責務であるという基本的な考えに基づいて、サブテーマを「『自信と勇気』を持たせる教育活動のあり方」に設定し、これからの5年間研究を進めていきたいと考えている。さらに、生徒同士、教員と生徒、教員同士が、共に高め合うより質の高い特別支援教育をめざしている。今年度は、「自立活動の内容についての情報交換」「一斉指導の中での、配慮の必要な生徒に対する適切な支援」「個別の指導計画・個別の教育支援計画について」「生活単元学習のねらいやもち方について」の4つの課題について各支部で研究を推進していくこととした。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月21日（火）
- ② 場所 善通寺市民会館
- ③ 内容

ア 小中合同全体会

・【小学校提案】

「専門家との連携とその事例 ～適切な支援につなげるために～」

坂出市立府中小学校 國友 良純

坂出市立加茂小学校 荒井 清和

・【中学校提案】

「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」

丸亀市立飯山中学校 山田 真由子

・【講演】

「児童生徒理解を深める心理検査の活用方法」

香川大学教授 惠羅 修吉 氏

イ 中学校分科会

・【自立活動の内容についての情報交換】

「各校での取り組みについての情報交換」

・【一斉指導の中での、配慮の必要な生徒に対する適切な支援】

「具体的な方法・教材教具等について、情報交換」

・【個別の指導計画・個別の教育支援計画について】

「様式の情報交換・引き継ぎの方法・『かけはし』とのかねあいについて」

・【生活単元学習のねらいやもち方について】

「各校の取り組みについての情報交換」

3 成果と課題

夏季研修会では活発な質疑応答が行われ、研修を深めることができた。また、県教委事務局特別支援教育課主任指導主事 高橋聖子先生から指導・助言をいただき、さらに有意義な研修会となった。

来年度は、香川県で第24回全特連中国・四国地区研究大会が開催される。香中研特別支援教育部会としても、「教科別の指導」「中学校における取り組み」「発達障害のある児童生徒への指導」の各分科会で実践報告をすることが決まっている。会員相互に日々研鑽を積み、協力して研究を進めていきたいと考えている。

ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成

～ へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした
学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして ～

へき地教育研究部会

1 研究主題

へき地の子どもたちは豊かな自然に囲まれ、地域の人々の温かさの中で育っている。一方、校区内では少子高齢化が進み、日常生活や学校生活の中で同年代の子どもと切磋琢磨する経験が減ってきている。そのため、子どもたちの特徴として、純朴ではあるものの受け身であり、また、人間関係が固定化するため、コミュニケーション力の向上という点においても課題が感じられる。

このような現状を踏まえ、へき地教育研究部会では、21世紀を生きる児童・生徒に、地域の一員として「ふるさと」から学び、「ふるさと」を誇りに思う人間力豊かな子どもに育てほしいとの思いで、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 実践の概要

上記研究主題を受けて、各地域・各学校の特色を生かした研究実践を、各校において推進する。各校の取組については、夏のへき地教育研修講座で情報交換を行う。

(2) 夏季研修講座

- ① 期日 平成30年7月26日（木）
- ② 場所 香川県社会福祉総合センター
- ③ 参加者 へき地校勤務教職員80名
- ④ 内容

ア 全体会（講演）

「直島ぐらしの魅力」

講師 松崎 栞 先生

（直島町観光親善）

講師の松崎栞先生は、大学時代に初めて直島を訪れ、島の雰囲気魅了されたそうだ。大学卒業後、大阪の企業に就職したが、25歳の時に移住を決断し、7年になる。2013年に直島町観光親善大使に就任、島の男性と結婚し、執筆活動（漫画家）をしながら、4歳に

なる女兒と3人で島暮らしをなさっている。「島暮らしで感じること」をテーマに、素敵な自然・行事・食・人の魅力、島暮らしの苦勞、島での子育て等にふれながら「島に来て心が豊かになり、夢もかなえることができた」と、楽しくご講演いただいた。

イ 分科会

テーマ「学校の特性を生かした豊かな学びの育成」

(ア) 【小学校提案発表】

丸亀市立本島小学校

「豊かな人権感覚と確かな学力の育成をめざして—少人数の特性を生かした主体的・対話的な深い学びの充実—」

(イ) 【中学校提案発表】

坂出市立岩黒中学校

「確かな学力とコミュニケーション能力を身に付ける生徒の育成—『個に応じた指導』と『対話的な学び』を通して—」

(ウ) 【グループ別討議会】

全13グループに分かれての討議

- ウ 指導・講評 香川県教育委員会事務局 義務教育課 荻田 康世 主任指導主事
- ・本島小・岩黒中の実践について
 - ・へき地校のメリットについて

3 成果と課題

各校の取組に、地域の特性を生かした工夫が見られた。小規模校の利点は、何より一人一人の子どもにとって活躍の場が十分保障されることだと考える。荻田主任指導主事からの指導にもあったように、自尊感情・自己有用感を高めるために、へき地校の特性を生かした指導の工夫について、今後も研究を深めていきたい。

1 研究主題について

学校教育法における事務職員の職務規定が「従事する」から「つかさどる」へ改正され、事務職員には、より専門性を高め、一人一人が責任を持って、主体的・積極的に業務改善をはじめとする校務運営に参画することが期待されている。学校事務の職務そのものが大きな広がりを見せているなか、チームの一員として、地域や教育委員会との連携もひろげながら、次の世代につなぐ、そして未来に向けても多くの可能性がひろがるように研究を進めていく。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月21日（火）
- ② 場所 観音寺市民会館
- ③ 内容 講演「学校現場における働き方改革 成功のヒント」

◎コクヨワークスタイル研究所
主幹研究員 齋藤敦子 氏

(2) 各支部の研究

〈高松〉

「未来を見つめた学校事務の創造—新しい時代の事務職員の在り方—」財務等6領域で活動し、その成果を事務処理の効率化や業務改善、教員の事務負担軽減、事務職員の学校運営参画に活かす。また、人材育成を図るため若年研修も行う。そして、新しい時代に向けて共同実施の在り方を模索するために、共同実施研究班を設け活動する。

〈丸亀〉

「未来につなぐ ひろがる学校事務」情報共有や相互支援による事務処理能力の向上、効率的な事務処理体制の確立を目指す。また市教委と連携しサービス管理システムの導入・運用および規則改正に関する研究に取り組み、教職員の業務改善につなげる。

〈坂出・綾歌〉

「新しい時代の教育環境づくり」信頼され、特色ある学校づくりをチーム学校の一員とし

て推進するため、事務職員の果たすべき役割についての実践・研究を行う。学校の未来を見据え、次世代につなげる、事務をつかさどる職としての在り方を追求していく。

〈三豊・観音寺〉

「チーム力を生かした新たな学校事務の実現をめざして」マネジメント手法を取り入れた行動計画書を基に、学校・学校事務部会・共同実施等「チーム」としての意識の確立と、課題を解決へと導くことのできる組織的な事務処理体制の構築をめざし研究を推進する。

〈仲多度・善通寺〉

「楽になろうよ～業務の効率化・改善から～」教職員が働きやすい環境づくりの視点に立ち、教職員、共同実施グループ、市町教委との連携を図りながら、時機をとらえてひろがりのある業務改善を進める。「引継ぎ」、「学費事務」について具体的・実践的な研究を推進する。

〈小豆〉

「島の未来を見据えた教育環境づくりの推進」

学校再編による事務職員の減少と世代交代の現状を踏まえ、学校事務の標準化・システム化の研究をさらに推進する。研究の効率化を図るため、各町・グループ間の連携を密にして共通理解・共通実践をする。

〈さぬき・東かがわ〉

「チーム学校の一員として」学校数の減少を踏まえ、学校間、事務職員間の情報共有を図り連携をより強化して研究をすすめる。それを通して事務職員個々、全体の力量形成を図り、成果を学校現場に反映させ、業務改善にもつなげる。

3 成果と課題

学校事務職員が学校マネジメントに役割を果たすことが明確化された。自ら課題解決を行えるマネジメント力を育成していく中で、教育支援につながる研究を深め、学校運営に参画できるよう研究を進めていきたい。

自立し、自分らしい生き方のできる力を育てるキャリア教育

進路指導研究部会

1 研究主題について

産業・経済の構造的変化や雇用形態の多様化・流動化を背景に、将来への不透明さが増幅する中、学校教育全般をキャリア教育の視点に立って見直すことで、生徒一人一人が自分らしい生き方のできる力を育てるために、どのような指導が必要かについて研究を進める。

2 研究の概要

(1) 第1回研修会

- ① 期日 平成30年6月8日（金）
- ② 場所 県教育センター
- ③ 内容 ・29年度事業報告
・30年度事業計画

(2) 夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月17日（金）
- ② 場所 高松テルサ
- ③ 内容
 - ア 研究実践発表
 - ・高松支部の実践発表（香川第一中）
 - ・さ東支部の実践発表（志度中）
 - イ 指導・講話
県教委主任指導主事 土岐 浩司 様
 - ウ 講演
株式会社タダノ 大橋 祐子 様

(3) 第3回研修会

- ① 期日 平成30年11月20日（火）
 - ② 場所 県教育センター
- 夏季研修会での発表内容

【香川第一中学校】

○第2学年での取り組みを中心として、学年集会での全体指導のあり方や、道徳の実践例の紹介。

Q. 夢の実現について失敗例の紹介を生徒にしたか。

A. 生徒には夢を叶えた話をした。しか

し、努力し続けることの大切さと、挫折を味わった例を示した。

【志度中学校】

○さ・東支部として、白鳥中での地域活性化事業と連携した例（ふるさと企業PR、企業説明会）を紹介。

Q. 職場体験の実施時期はどのように決定しているのか。

A. 地元企業で定休日が異なり、2日間になることもある。理想は、自分が企業を選び、失敗しても乗り越える経験が大切。現実を受け入れ先の意向もある。

3 成果と課題

夏季研修においてご指導いただいた内容より、今回の実践において、職場体験学習と地域との連携をさせることで意識面におけるキャリア形成の一助となることが成果としてあげられる。

課題として次の3点が挙げられる。

① 学年集会などでの指導を効果的に実施するべきで、一方的な伝達だけでは、先の不安をあおることにもなる。自分たちの考えを伝え合うことで前向きになり、失敗を乗り越える力が身に付く。

② 地域とのつながりを大切にし、将来地域に帰ってきて貢献できるような生徒の育成をすると共に、「地域を知る」ということが重要である。

③ キャリア教育は、各教科・教育活動全体で実施するべきで、キャリアに関する記録を蓄積し、引き継ぐことが大切である。（キャリアパスポート）これは31年度から先行実施である。

すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方

— 学校給食を活用し、望ましい食習慣を身に付けた生徒の育成をめざして —

学校給食研究部会

1 研究主題について

平成17年に「食育基本法」が制定され、食育は生きる上での基本であり、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てると示されている。学校の教育活動全体において食育を推進していく中で、学校における食育の中心となる学校給食を生きた教材として活用して、望ましい食習慣の形成や郷土の食文化を理解するとともに、好ましい人間関係を築き、豊かな心とたくましく生きる力を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 夏季研修会

- ① 期日 平成30年8月17日（金）
- ② 場所 高松市国分寺会館
- ③ 内容

ア 実践発表

「すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方 —学校給食を活用し、望ましい食習慣を身に付けた生徒の育成をめざして—」

坂出市立坂出中学校

栄養教諭 安岡あゆみ

坂出市立白峰中学校

栄養教諭 久保 祐子

生徒の実態に応じた食育が、給食の時間をはじめ、教科等の指導や家庭・地域との連携を通して、幅広い領域で行われている。給食時は、栄養教諭による指導はもちろんのこと、給食委員会による指導資料を活用した、生徒同士の学びあいの場になっている。

PTA母親部会との連携では、母親部会から入学式の後に新入生保護者に対し

て食事の見直しや、弁当の日の呼びかけなどを行っている。

教員間・地域・家庭と連携した食に関する授業実践や実践力につなげる食育活動の紹介があった。

イ 講演 すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方

講師 香川県教育委員会事務局

保健体育課 主任指導主事

赤松 美雪 先生

食に関する現状から、学校のみならず日本が抱える食への課題、チーム学校として食育を推進し、評価・改善につなげるためのお話をいただいた。子どもたちを支える家庭にも多くの課題があり、この現状を打破するために、達成可能な目標を段階的に設定することが大切と実感した。

また、食物アレルギーについても全教職員が正しい認識をもち、学校全体で共有し、確実に対応することで、生徒たちの安全を担保しなければと改めて考えさせられた。

食育・アレルギー、全てにおいて学校教育全体で取り組むことが重要である。幼い頃から給食などを通して様々な食に触れることの大切さを改めて感じた。

3 成果と課題

夏季研修会の研修は、各校における食育の推進に役立てることができた。今後も学校給食を生きた教材として活用し、食育を進めていくことが大切である。また、学校、家庭、地域が連携して子どもたちの豊かな心と健康な体、そして自己管理能力を育てていきたい。

IV 事業報告

本 部

1 平成30年度研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 活動方針等

(1) 活動方針

香川県教育委員会及び市町教育委員会、香川県中学校長会との連携を一層深め、大きく変革している学校教育を取り巻く様々な課題に対応できる実践的な教育研究を進め、県下中学校教職員の指導力や資質・能力の向上に努め、生徒の学力向上を図る。

(2) 運営体制

会長と支部長、各教科・教科外研究会会長との意思疎通を十分に図り、香中研全体が組織的かつ機動的に活動できるよう努める。

3 役員会及び運営委員会

(1) 第1回

役員会 5月15日（火）14:00～16:25

運営委員会 5月24日（木）14:00～16:25

(2) 第2回

役員会 7月12日（木）10:00～11:40

運営委員会 8月6日（月）14:00～16:25

(3) 第3回

役員会 11月22日（木）14:00～16:25

運営委員会 12月11日（火）14:00～16:25

4 各支部・部会の事務局長・会計長会

(1) 第1回 5月24日（木）14:00～16:25

(2) 第2回 2月14日（木）、15日（金）
13:00～17:00

5 調査研究活動

(1) 香中研の組織・運営・研究方針に関する研究協議

(2) 香中研研究大会及び夏季研修会の効果的な運営に関する研究協議

(3) 研究会による研究推進及び研究報告書等の研究協議

(4) 香川県教育委員会からの委託研究

6 研究大会

(1) 支部夏季研修会 7月27日（金）

(2) 教科夏季研修会 7月31日（火）

教科外夏季研修会 8月17日（金）

(3) 教科研究大会・研修会6部会

特別活動部会(県・大会) 10月4日（木）

美術部会(四国・大会) 10月25日（木）

メディア教育部会(四国・大会)

10月25日（木）

生徒指導部会(県・大会) 10月30日（火）

技術・家庭部会(中四大会) 11月1日（木）

2日（金）

人権・同和部会(県・大会) 11月8日（木）

7 研究成果刊行物・その他

(1) 「研究紀要」第59号、「香中研だより」

香川県教育委員会、同各教育事務所、香川県教育センター、市町教育委員会、県内大学、各中学校会員に配布

(2) 「研究紀要」URL

<http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

高 松 支 部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 高松地区中学校教育研究会総会

総会は開催せず、部会ごとに紙面での報告

内容 平成29年度事業報告・決算報告
平成30年度事業計画・予算審議
各部会（教科・教科外）事業計画
役員選出、研究の進め方等

3 研究大会

(1) 平成30年度高松地区中学校教育研究大会 （北ブロック）

期日 平成30年11月16日（金）

高松市立紫雲中学校

研究主題 「確かな学力を育み 一人ひとりの自己実現を図る 進路保障の推進」

(2) 平成30年度高松地区中学校教育研究大会 （南ブロック）

期日 平成30年11月16日（金）

高松市立龍雲中学校

研究主題 「気づきをもとに探究し、学びを実感できる授業～支持的風土の醸成や基礎・基本の定着を基盤として～」

4 教科研究会・教科外研究会

(1) 教科研究会

定期試験前日の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに研究授業及び実践研修等を行った。

(2) 教科外研究会

定期試験第1日目の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに実践研修等を行った。

5 研究成果の発刊

部会ごとに研究紀要を作成、各部会員及び研究大会への参加者に配布

丸 亀 支 部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 丸亀支部代表者研修会

日時 4月6日（金）14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究主題について検討
年間計画、総会の打ち合わせ

(2) 総会並びに第1回部会

日時 5月2日（水）13:55～16:20

会場 丸亀市立南中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定
教科部会（11部会）
教科外部会（12部会）

(3) 市夏季研修会

日時 7月27日（金）9:00～

会場 丸亀市立東中学校、南中学校 他

内容 教科部会
各教科で研究討議や現地研修会

(4) 市中学校総合研究会並びに第2回部会

日時 11月1日（木）13:50～16:30

会場 丸亀市立東中学校

研究主題
「確かな学力をつけるための授業改善」
「わかる」授業のあり方を求めて
～東中授業八策と共に～

内容 教科の研究主題に基づく公開授業
研究討議

(5) 第3回部会

日時 12月5日（水）14:00～16:30

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 本年度のまとめと来年度の計画

(6) 丸中研編集委員会

日時 1月4日（金）14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究内容のまとめと編集

3 研究成果の刊行

「研究紀要第50号」全員に配布
本年度の研究経過、内容、討議等のまとめ

坂出・綾歌支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校力を高める研究会活動」
—確かな学力の定着と豊かな心の育成をめざして—

2 主な研究活動

(1) 坂出・綾歌支部総会、教科、教科外研修会

期日 4月16日(月)
会場 坂出市立東部中学校
内容 研究主題、研究計画、研究組織等の決定
教科部会 (11部会)
教科外部会 (15部会)

(2) 教科研修会

期日 5月31日(木)市・郡内各中学校
6月8日(金)香大附属坂出中学校研究発表会に参加
9月25日(火)市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等

(3) 教科外研修会

期日 6月21日(木)市・郡内各中学校
7月27日(金)市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等

期日 10月30日(火)坂出市立東部中学校
内容 香中研究生徒指導部会研究大会に参加

(4) 運営研修会

第1回 4月5日(木)綾南中学校
研究方針及び事業計画の作成
第2回 1月25日(金)東部中学校
本年度の反省と来年度の計画及び研究日程案の検討

3 研究成果の刊行

「研究と実践 第54号」を会員に配布

小豆支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 小豆支部総会・部会研修会

日時 4月27日(金)13:45~16:30
会場 土庄町立土庄中学校
内容 総会 (全体会)
教科部会 (10部会)
教科外部会 (12部会)
研究組織・研究主題・研修計画等の決定

(2) 教科研修会

① 第1回(統一日)

日時 6月13日(水)
会場 郡内各中学校
内容 研究授業・研究協議等

② 第2回

日時 さみだれ方式
会場 郡内各中学校
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

(3) 教科外研修会

① 第1回(・第2回)

日時 さみだれ方式
(各部会 年間1~2回)
会場 郡内各中学校 他
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

3 研究成果の刊行

「研究と実践」第58号を全員に配付
入手先:小豆支部事務局(小豆島中学校)

さぬき・東かがわ支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究活動

(1) さぬき・東かがわ支部全体会

期日 4月27日(金)

会場 さぬき市立さぬき南中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

(2) 教科研究会

期日 5月31日(木)、9月20日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議等

(3) 教科外研究会

期日 7月27日(金)、10月11日(木)

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 研究授業、研究発表、研究討議、講話、実技研修、情報交換、現地研修等

(4) 教科・教科外部長研修会

期日 ① 4月27日(金)

② 1月18日(金)

会場 ① さぬき市立志度中学校

② 東かがわ市立大川中学校

内容 ① 本年度のさぬき・東かがわ支部の研究会の在り方及び方向付け

② 本年度の反省と次年度の計画等

3 研究成果の刊行活動

「研究紀要」を全会員に配布(2月)

仲多度・善通寺支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」
—授業力向上のための指導と評価の充実—

2 主な研究活動

(1) 仲・善支部総会

日時 5月2日(水) 14:00~16:30

会場 善通寺市立西中学校

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定

(2) 教科等研究会

日時 6月15日(金) 14:00~16:30

会場 郡市内各会場校

内容 研究授業の実施と研究協議

(3) 教科・教科外研究会

日時 7月27日(金) 8:20~12:20

会場 まんのう町立満濃中学校

内容 研究協議・実践発表・情報交換

(4) 教科等研究会

日時 8月20日(月) 8:40~12:00

会場 まんのう町農村環境改善センター

内容 小・中教科等研究員の研修会

(5) 教科等研究会

日時 10月18日(木) 14:00~16:30

会場 郡市内各会場校

内容 教科研究員による研究授業・研究協議

(6) 学校事務部会

日時 5月25日(金) 13:30~16:30

7月26日(木) 8:30~16:30

11月9日(金) 13:30~16:30

1月18日(金) 13:30~16:30

会場 善通寺市総合会館他

内容 研究主題・研究組織・研究計画の決定
事例発表・グループ研究・講演等

3 研究成果の刊行

各教科・教科外部会の実践を「研究紀要」
第58号にまとめ、全会員に配布

三豊・観音寺支部

1 研究主題

「豊かな学びを求め、主体的・創造的に生きる生徒の育成をめざした中学校教育の実践」
—教職員の資質・能力と意欲の向上をめざす、各部会の創意ある実践的研究—

2 主な研究活動

(1) 三観地区中学校教科・教科外全体研修会

- ① 日時 5月2日(水) 14:00~16:30
- ② 会場 三豊市豊中町農村環境改善センター
三豊市市民交流センター 他
- ③ 全体会：昨年度の事業・会計報告
本年度の活動・会計計画説明
- ④ 教科・教科外部会
：研究主題の決定
組織づくり・研究計画の作成

(2) 三観中研総合研究会

- ① 日時 11月16日(金) 13:20~16:30
- ② 会場 観音寺市立中部中学校
- ③ 研究主題
「学ぶ喜びを実感し、主体的に学習する生徒の育成」
—子どもの思いや考えをつなぐ授業づくり—
- ④ 内容
 - ・ 全体提案(中部中学校)
 - ・ 公開授業(各教科)
 - ・ 授業討議(各教科に指導者招聘)

(3) 教科等各部会夏季研修会

- 日時 7月27日(金)

(4) 各部会理事・主任研修会

- 理事・主任研修会 年間3回実施
- ・ 第1回は全体研修会と兼ねた。
 - ・ 第2回は2学期に部会ごとに行った。
 - ・ 第3回は1月17日(木)に教科部会及び養護部会を一斉に行った。

3 研究成果の刊行

「三観の教育」第48集

- 今年度から、PDFデータを三豊市・観音寺市の各共有フォルダに保存し、会員が自由に閲覧できるようにした。

国語教育研究部会

1 役員・理事会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

2 夏季研修会

期日 7月31日(火)
場所 県社会福祉総合センター
内容 講演、研究発表、ワークショップ

3 委託研究部会

年間4回開催、「さぬきの授業基礎・基本」の具現化に向けた実践事例の検討とまとめ

4 若年研修部会

附属高松中、綾川町立綾南中での授業研究会等、4回の研修

5 機関誌「国語科教育」の刊行

6 ホームページ

Googleとyahooで「香川県中学校国語教育研究会」を検索

<http://sites.google.com/site/kagawakokugo>

社会科教育研究部会

1 役員会、評議員会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

2 夏季研修会

- (1) 日時 平成30年7月31日(火)
- (2) 場所 オークラホテル丸亀
- (3) 内容
 - ・ 県研究大会に向けて全体提案・分野別提案及び質疑応答
 - ・ 講話 国土地理院 木村佳織 様
 - ・ 研究提案及び小グループ討議
 - ・ 実践交流会
 - ・ 講演 香中社OB 玉井一郎 先生
香中社OB 森田武雄 先生

3 若年教員授業力向上研修

- (1) 日時 平成30年9月20日(木)
平成30年12月14日(火)
- (2) 場所 土庄町立土庄中学校
附属高松中学校
- (3) 内容 研究授業及び研究討議

4 第15回香川県小・中学校総合文化祭 社会科研究発表会

- (1) 日時 平成30年11月10日(土)
- (2) 場所 レクザムホール
- (3) 内容 各地区代表生徒による研究発表
- (4) 指導者 香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事 三野 健 先生
香川大学教育学部
教授 鈴木 正行 先生

5 研究成果の刊行

- (1) 「社会科研究」第59号
- (2) 「生徒の社会科研究」第56号

数学教育研究部会

1 総会

6月3日(日) 附属高松中学校

・前年度事業報告、決算報告、事業計画等

2 夏季研修会

7月31日(火) サンメッセ香川

・講演 金沢大学 教授 大谷実 先生

4 理事・代議員会及び研究委員会

2月16日(土) 附属高松中学校

5 「数学教育評論」第14巻4号の刊行

理科教育研究部会

1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕平成30年5月19日(土)

○ 事業・会計計画、役員改選 等

〔第2回〕平成30年12月1日(土)

○ 事業・会計中間報告、研究内容検討 等

〔第3回〕平成31年2月16日(土)

○ 各郡市研究成果の発表 等

2 夏季研修会

期日 平成30年7月31日(火)

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 講演、中間報告、実験観察講習会

3 若年研修会

期日 平成30年10月12日(金)

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

期日 平成30年10月24日(水)

場所 綾川町立綾南中学校

4 第70回香川県中学校生徒科学体験発表会

期日 平成30年11月4日(日)

場所 高松テルサ

5 機関誌「理科教育—中学校—」の刊行

音楽教育研究部会

1 企画会

〔第1回〕平成30年5月1日(火)

○ 事業・会計計画、役員改選等

〔第2回〕平成30年12月5日(水)

○ 事業・会計中間報告、研究推進等

2 理事会

〔第1回〕平成30年5月12日(土)

〔第2回〕平成30年12月15日(土)

3 研究部会

〔第1回〕平成30年7月31日(火)

○ 研究委託原稿の検討

〔第2回〕平成31年2月24日(日)

○ 次年度研究推進について

4 夏季研修会

期日 平成30年7月31日(火)

場所 三木町文化交流プラザ

内容 新学習指導要領の実施に向けて

講師 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官

白井 学 先生

5 研究成果刊行 機関誌「香川音楽55号」

美術教育研究部会

1 役員・評議員 研究主任会含

〔第1回〕平成30年5月19日(土)

平成29年度事業報告、平成30年度事業計画、予算案決議、研修会に向けて協議

〔第2回〕平成31年1月26日(土)

平成30年度実践報告、平成31年度事業構想

2 夏季研修会 7月31日(火)

会場 高松市立高松第一中学校

内容 各支部研究実践発表

3 四国造形教育研究大会 10月25日(木)

会場 高松市立香東中学校

内容 研究授業・研究提案・授業討議

ポスターセッション・記念講演

4 総合文化祭展覧会 平成31年1月11日(金)～

1月14日(月) 作品審査・展示

5 研究成果の刊行 「美術教室第55号・第

30回四国造形教育研究大会 研究のまとめ」

授業実践の報告、特色ある取組の報告、各支部研究報告

保健体育教育研究部会

1 役員会

- (1) 4月24日(火) 高松国際ホテル
- (2) 2月26日(火) 高松市総合教育センター

2 地区研究研修会

- (1) 第1回 6月3日(日) 玉藻中
部会組織・研究計画と夏季研修会の計画
- (2) 第2回 7月31日(火) レクザムホール
夏季研修会の運営、研究の情報交換
- (3) 第3回 9月2日(日) 玉藻中
紀要の編集計画、研究の情報交換
- (4) 第4回 1月6日(日) 玉藻中
各支部研究報告及び今年度の反省
次年度計画

3 夏季研修会

7月31日(火) 講話・演習

「新学習指導要領に求められるもの-保健体育は何を保障するのか-」
保健体育課指導主事より指示・伝達

4 研究物の刊行

「県中保体だより」第59号

技術・家庭科教育研究部会

- 1 中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会
香川県中学校教育研究会技術・家庭科部会研究大会
10月31日(水)～11月2日(金)
全体会、提案分科会、公開授業、研究協
議、指導講評

2 役員・理事研修会

- 〔第1回〕平成30年5月6日(日)
○ 平成30年度事業計画、予算案
〔第2回〕平成30年10月21日(日)
○ 事業状況確認、研究内容検討
〔第3回〕平成31年3月3日(日)
○ 本年度のまとめと次年度計画

3 夏季研修会

期日 7月31日(火) 場所 高松テルサ
内容 研究大会に向けての提案・指導など

4 研修会

期日 11月25日(木) 他3日間
場所 高松市立勝賀中学校 他3中学校
内容 研究大会に向けての研究授業など

5 技能競技大会

期日 8月25日(土)
場所 附属坂出中学校 家庭科室

6 創造アイデアロボットコンテスト

期日 11月17日(土)
場所 サンポート高松 展示場

7 研究成果刊行

・機関誌「技術・家庭科教育」第59号

英語教育研究部会

1 理事会

- (1) 期日
第1回 5月13日(日)
第2回 6月23日(土)
第3回 12月1日(土)
第4回 2月9日(土)
- (2) 会場 高松シティホテル

2 春季大会

- (1) 期日 6月12日(火)
- (2) 会場 琴平町立琴平中学校
香川県立琴平高等学校

3 夏季研修会

- (1) 期日 7月31日(火)
- (2) 会場 丸亀市綾歌総合文化会館
アイレックス

4 第68回香川県中学校英語弁論大会

- (1) 期日 10月6日(土)
 - (2) 会場 読売新聞社高松総局ホール
- ### 5 機関誌「中英香川55号」発行
-
-

養護研究部会

1 役員・代議員・研究部員研修会

- (1) 平成30年5月18日(金) 香川県教育会館
 - ① 平成30年度役員紹介
 - ② 平成30年度事業計画案・予算案審議
 - ③ 平成30年度研究の進め方について
 - ④ 夏季研修会、中体連救護活動等について
- (2) 平成31年2月8日(金) 香川県教育会館
 - ① 平成30年度事業報告・会計報告
 - ② 平成30年度研究の反省とまとめ
 - ③ 次年度研究の進め方について

2 夏季研修会

- (1) 日時 30年7月31日(火) 9:00～12:00
- (2) 場所 丸亀市総合文化会館(アイレックス)
- (3) 講演①「学校における労働安全衛生管理について」
県教委 健康福利課 副主幹
黒田実由記 氏
講演②「生徒の問題行動と養護教諭のかかわり方」
臨床心理士 廣田 邦義 氏
演習「チェアエクササイズ-体ほぐし体操-」
NPO法人 日本健康運動指導士会香川支部
中村麻紀 氏

3 研究成果刊行

「研究紀要39号」

道徳教育研究部会

- 1 評議員・理事・研究委員会
5月12日(土)
○研究組織づくり、夏季研修会・研究大会の持ち方
2月16日(土)
○今年度の反省と平成31年度の研究について
- 2 研究部研修会
6月16日(土) 11月17日(土)
○道徳科の指導方法の工夫および評価について
- 3 編集部研修会
8月4日(土) 9月1日(土)
○「道徳教育第43号」の編集～校正
- 4 夏季研修会
日時：8月17日(金) 会場：高松テルサ
内容：全体会 県の基調提案 課題別分科会
- 5 研究成果刊行
「道徳教育第43号」

特別活動研究部会

- 1 役員・理事研修会
(1) 期日 平成30年6月15日(金)
(2) 場所 さぬき市立さぬき南中学校
- 2 夏季研修会
(1) 期日 平成30年8月17日(金)
(2) 場所 さぬき市立さぬき南中学校
(3) 内容
① 各支部の実践発表
課題 「なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成」～話し合い活動を軸として～
② 講演
講師 香川県教育委員会事務局義務教育課主任指導主事 三野 健氏
内容 「各郡市の取組への指導・助言と特別活動における国の方向性」
- 3 研究大会
(1) 期日 平成30年10月4日(木)
(2) 場所 さぬき市立さぬき南中学校
(3) 内容 基調提案、研究授業、指導講評

生徒指導研究部会

- 1 役員研修会
〔第1回〕平成30年5月22日(火)
○事業・会計報告、事業計画、役員改選事業案・予算案・各支部情報交換 等
〔第2回〕平成30年11月16日(金)
○事業報告と反省
次年度の研究について・情報交換 等
- 2 夏季研修会
期日 平成30年8月17日(金)
場所 高松テルサ
内容 各支部の実践発表
- 3 研究大会
期日 平成30年10月30日(火)
場所 坂出市立東部中学校
内容 研究授業・研究提案
講演
「自己指導能力の育成をめざして」
鳴門教育大学大学院
教授 阪根 健二 氏

メディア教育研究部会

- 1 評議員・理事研修会
〔第1回〕平成30年6月12日(火)
○事業計画・会計報告、役員改選等
〔第2回〕平成31年1月29日(火)
○事業・会計報告、次年度研究方針等
- 2 NHK杯全国中学校放送コンテスト
○香川県予選 平成30年7月27日(金)
- 3 夏季研修会
期日 平成30年8月17日(金)
場所 情報通信交流館eとぴあ・かがわ
内容 全体提案発表、講演
- 4 香中研メディア教育部会研究大会
(第50回放送教育四国大会香川大会)
期日 平成30年10月25日(木)
場所 丸亀市立綾歌中学校、アイレックス
内容 部会提案発表、公開授業・討議、研究交流分科会、全体講演会
- 5 研究成果(Web掲載)
URL <http://www.kagawa-edu.jp/kachuj01>

人権・同和教育研究部会

1 部会総会

- 日時 5月8日(火)
会場 レクザムホール
内容 事業報告、事業計画、役員改選
四人研・全人教大会報告内容の検討

2 部会研修会

- [第1回] 日時 4月10日(火)
内容 事業計画
[第2回] 日時 9月14日(金)
内容 香同教大会の業務、研究紀要
[第3回] 日時 2月26日(火)
内容 反省、次年度の計画

3 夏季研修会

- 日時 8月17日(金)
会場 香川県社会福祉総合センター
内容 香同教大会報告内容の検討
指導助言

4 研究大会

- 日時 11月8日(木)
会場 三豊市立和光中学校
内容 全体提案
公開授業・授業討議
指導助言

学校図書館研究部会

1 学校図書館部会研修会

- [第1回]
期日 平成30年5月17日(木)
場所 香川県教育センター
内容 事業・会計報告及び事業計画、役員改選
[第2回]
期日 平成30年10月23日(火)
場所 香川県教育センター
内容 読書感想文の審査

2 夏季研修会

- 期日 平成30年8月17日(金)
場所 ユープラザうたづ
内容 来年度四国大会(香川大会)研究発表
校による中間発表・質疑応答
来年度四国大会(香川大会)における
3分科会についての協議

3 研究成果刊行

- 香川県読書感想文集64号

学校保健研究部会

1 役員・理事研修会

- (1) 第1回
日時 平成30年6月8日(金)
場所 香川県教育センター3階第2会議室
内容 平成29年度 事業報告・会計報告
平成30年度 事業計画・予算審議
平成30年度 研究テーマについて

(2) 第2回

- 日時 平成30年2月7日(木)
場所 香川県教育センター3階第2研修室
内容 各支部研究報告, 研究収録について

2 夏季研修会

- 日時 平成30年8月17日(金) 9:00~12:00
場所 香川県社会福祉総合センター
(第1中会議室)
内容 指導講話「学校保健の動向と課題について」
研修講話「アンガーマネジメント」

3 研究成果刊行

- 平成30年度 研究集録

特別支援教育研究部会

1 役員・評議員・理事研修会

- [第1回] 平成30年5月30日(水)
○ 事業・予算計画、役員改選、季研計画
[第2回] 平成31年2月23日(土)
○ 事業・会計報告, 研究成果刊行物配布
○ 次年度の事業・予算計画

2 夏季研修会

- 期日 平成30年8月21日(火)
場所 善通寺市民会館
内容
<小中合同全体会>
小学校&中学校実践発表
講演 「児童生徒理解を深める心理検査の
活用法」
講師 香川大学教授 惠羅 修吉 氏
<中学校分科会>
テーマ別研修会(4テーマで開催)

3 研究成果「研究紀要」の刊行

へき地教育研究部会

- 1 へき地教育研修総会
期日 平成30年5月11日(金)
場所 銀星旅館
- 2 へき地校長研修会・へき地教育研修会
(1) 第1回
期日 平成30年6月7日(木)
内容 研究紀要編集計画、原稿依頼
(研修講座に向けて)
(2) 第2回
期日 平成30年9月14日(金)
内容 研究紀要作成
(3) 第3回
期日 平成31年1月11日(金)
内容 研究紀要校正
- 3 県へき地教育研修講座
期日 平成30年7月26日(木)
場所 香川県社会福祉総合センター
内容 講演:「直島ぐらしの魅力」
講師:松崎 栞 様
(直島町観光親善大使)
分科会 小学校発表 本島小学校
「豊かな人権感覚と確かな学力
の育成をめざして一少人数の特
性を生かした主体的・対話的な
深い学びの充実一」
中学校発表 岩黒中学校
「確かな学力とコミュニケー
ション能力を身に付ける生徒の
育成一『個に応じた指導』と『対
話的な学び』を通して一」
- 4 研究成果刊行
「香川のへき地教育」発行

学校事務研究部会

- 1 学校事務研修会
期日 平成30年5月18日(金)
場所 高松テルサ
内容 事業報告・会計報告・役員組織決定
事業計画・予算案審議
各支部等研修計画
- 2 夏季研修会
期日 平成30年8月21日(火)
場所 観音寺市民会館(ハイスタッフホール)
内容 『未来につなぐ ひろがる学校事務』
(1) 講演 「学校現場における働き方改革成功
のヒント」
コクヨワークスタイル研究所
主幹研究員 齋藤 敦子 氏
学校事務部会HP
<http://www.kagawa-edu.jp/kasckj01/htdocs/>

進路指導研究部会

- 1 役員・理事研修会
【第1回】
(1) 期日 平成30年6月8日(金)
(2) 内容
① 平成29年度事業報告・会計決算報告
② 平成30年度役員改選
③ 平成30年度事業計画及び予算案審議
【第2回】
(1) 期日 平成30年11月20日(火)
(2) 内容
① 平成30年度研究実践のまとめ
② 平成31年度の研究の方向について
- 2 夏季研修会
(1) 期日 平成30年8月17日(金)
(2) 場所 高松テルサ
(3) 内容 2支部の実践発表及び指導・講話
(株) タダノ講演

学校給食研究部会

- 1 役員・理事研修会
(1) 第1回 平成30年6月8日(金)
内容 研究主題・夏季研修会等について
(2) 第2回 平成31年1月31日(木)
内容 各支部活動状況・次年度の計画
- 2 夏季研修会
日時 平成30年8月17日(金)
場所 高松市国分寺会館
内容
講演 「すこやかな心身と豊かな人間性をは
ぐくむ食育の在り方」
香川県教育委員会事務局保健体育課
主任指導主事 赤松 美雪 先生
実践発表(坂出、綾歌)
- 3 研究成果刊行
研究紀要発行

『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業づくり 実践事例について

研究部委託研究班

1 これまでの経緯

香川県教育委員会が『さぬきの授業 基礎・基本』を発行した平成25年3月以降、本委託事業は、その具現化に向けた取り組みを重ねて来た。

平成25年度は『さぬきの授業』の第I章の内容について、平成26年度はその第II章部分についてそれらを「実践事例集」としてまとめた。

平成27年度及び28年度は、「子どもをその気にさせる教材・教具の工夫」に着目し、「導入」「展開」「終末」のそれぞれにおける実践を「実践事例集」としてまとめた。

2 本年度の研究委託について

(1) 委託する部会及び実践数

各教科部会 合計9部会 各9又は10実践

(2) 委託内容

① 研究テーマ

各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり（昨年度と同様）

平成29年3月に公示された新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単元等で身につけさせたい力を明確にした上で、生徒の学びの質に着目して授業改善の工夫を行っていくこととする。

② 取組の視点

実践事例は「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点ごとに整理し、教師の重要な支援を「ここがポイント！」として明確にする。

○ 主体的な学び

興味や関心 キャリア形成の方向性 見通し

○ 対話的な学び

子ども間の協働 教職員との対話 先哲の考え

○ 深い学び

習得・活用・探究 情報を精査 解決策

もちろん、これ以外のキーワードでもよい。

③ 取組のポイント

特に若い教師を念頭に置き、どのような授業の工夫・改善が求められているのかを、授業場面を通して具体的に示す。

(3) 実際の活動

- ① 6月26日 第1回委託研究班研修会
 - ・義務教育課より説明・依頼
 - ・書式等の確認
- ② 9月7日 第2回委託研究班研修会
 - ・原稿検討、内容・書式等の確認
- ③ 10月19日 第3回委託研究班研修会
 - ・原稿最終検討、本年度反省点の確認

3 次年度に向けて

【深い学び】 中学校第3学年 理科 単元「自然の中の生物」
 実験名ともなったより深い理解のために、シミュレーション実験と考察を行う

【本時の学習】
 <学習前の生徒の姿>
 生態系における生物の数の変動の規則性は本当にさうなるの？

本時の流れ
 学習課題 ライオンに食べられるシマウマは、なぜ絶滅しないのか？

1 絶滅しない理由を考え、発表する。
 2 シミュレーションを行い、25年間のライオンとシマウマの数の変化をグラフに記録する。
 3 グラフをもとに数の変化の規則性について考察する。
 4 考察した内容をグループごとにまとめ発表する。
 5 規則性をもとにシマウマが絶滅しない理由を推し、本時のまとめとする。

【本時の学習】
 厚紙 (98×270mm) 厚紙 (295×270mm)
 雄石 (ライオン) 雌石 (シマウマ)
 【シミュレーション実験のための準備物】

<シミュレーションのルール>
 はじめ ライオン 2頭 (雄石を2回転がす)
 シマウマ 8頭 (クリップを8回留める)
 ・雄石を転がしたら転がし、くっついたクリップの雄石がライオンに食べられたシマウマの数とする。
 ・雌石にクリップが3個以上くっつかない場合は、ライオンは餓死したものとする。
 ・当年生き残ったライオン、シマウマの数はそれぞれ倍になるものとして、25年間のデータをグラフにする。もし0頭になった場合は、次の年は1頭から始める。

【ここがポイント！ 生徒の姿】
 前回の大きなグラフを鑑賞し、共通する点は何かを問いかける。「ライオンとシマウマどちらが先に絶滅しているか」、「数値の変動（ライオンがシマウマの数を上回る）は起こっているか」などについて話し合わせる。

<学習後の生徒の感想>
 シミュレーション実験を通して、実際、生物の数量増減やつり合いがどのようなしくみで保たれるのかがよくわかった。

上の例のように、昨年度と同様、大変分かりやすく見やすい内容となった。次年度の活動については、事例集を作成するかどうかも含め、県教育委員会と協議しながら検討したい。

平成30年度若年教員授業力向上研修の開催について

1 目的

本県では現在、10年間で教員の約40%が退職するという過渡期にあり、若年教員の増加とともに、これまでの授業力の維持が大きな課題の一つとなっている。一方で、県教育センターでは、若年教員を対象にする研修として、初任者研修や教職1年経験者研修を実施しているが、教職2～4年経験者を対象とする研修は実施していない。

そこで、初任者研修、教職1年経験者研修で基礎・基本を研修した教員が、以後の3年間で自己研修を積み重ね、授業力の向上を図ることを支援するため、教科指導に係る若年研修（希望研修）を、香川県中学校教育研究会と香川大学教育学部の附属中学校が連携して香川県教育センターとの共催事業として実施し、授業力の向上を中心とした資質能力の向上を図る。

2 対象

- (1) 教職2年～4年経験の中学校教員
- (2) 受講を希望する教員

3 内容

- (1) 授業説明・研究授業・授業討議・課題の共有等とする。
- (2) 年2回実施する。
1回を香川大学教育学部の附属中学校で、もう1回を公立中学校で実施する。
- (3) 詳細は、各教科部会において「若年研修実施計画」を作成する。

4 実施報告

教科	国語	社会	数学	理科	音楽
対象者数	30	36	32	35	11
開催①	30.9.13	30.9.20	30.10.30	30.10.24	30.9.28
会場	綾南中	小豆島中	勝賀中	綾南中	坂出中
参加者数	対象者				
	19	6	21	17	2
	対象者外				
	6	18	3	10	2
開催②	30.10.23	30.12.14	30.12.11	30.10.12	30.11.26
会場	附高中	附高中	附高中	附高中	附高中
参加者数	対象者				
	23	24	14	15	8
	対象者外				
	4	5	4	1	3
教科	美術	保・体	技・家 (技)	技・家 (家)	英語
対象者数	4	26	0	5	32
開催①	30.9.20	30.10.4		30.9.21	30.10.17
会場	香東中	勝賀中		琴平中	長尾中
参加者数	対象者				
	4	13		1	15
	対象者外				
	0	21		8	3
開催②	30.10.23	30.11.10		30.11.1	30.11.15
会場	附坂中	附高中		四国大会	附坂中
参加者数	対象者				
	3	14		3	16
	対象者外				
	0	3		66	3

V 組織等

本 部 役 員

役員名	氏名	勤務校	職名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号	備 考
会長	山下 昌宏	高松市立古高松中学校	校長	761-0102	高松市新田町甲190-1	(087) 841-1577	
副会長	小林 理昭	善通寺市立西中学校	校長	765-0013	善通寺市文京町4-1-1	(0877) 62-2340	
副会長	萱原 正己	丸亀市立綾歌中学校	校長	761-2406	丸亀市綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006	
副会長	多田羅智紀	坂出市立瀬居中学校	校長	762-0064	坂出市番の州町11	(0877) 46-9193	
事務局 局長	黒川 統夫	高松市立屋島中学校	校長	761-0112	高松市屋島中町295	(087) 841-2236	
事務局 次長	谷 康弘	高松市立屋島中学校	教頭	761-0112	高松市屋島中町295	(087) 841-2236	
研究部 部長	木谷 直充	丸亀市立飯山中学校	校長	762-0082	丸亀市飯山町川原1110	(0877) 98-2027	
研究部 次長	石川 恭広	香川大学教育学部附属坂出中学校	副校長	762-0037	坂出市青葉町1-7	(0877) 46-2695	
研究部 次長	藪内 康則	香川大学教育学部附属高松中学校	副校長	761-8082	高松市鹿角町394	(087) 886-2121	
監 査	八村 匡純	高松市立玉藻中学校	校長	760-0077	高松市上福岡町714-1	(087) 861-8196	
監 査	江口 俊史	さぬき市立志度中学校	校長	769-2101	さぬき市志度2214-4	(087) 894-0148	

支 部 役 員

No	支部	支部長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	高松	八村 匡純	玉藻	760-0077	高上福岡町714-1	(087) 861-8196	増田 聖	国分寺	761-0101	高国分寺町新居 1131-1	(087) 874-0031	小野坂寧晃	国分寺	761-0101	高国分寺町新居 1131-1	(087) 874-0031
2	丸亀	萱原 正己	綾歌	761-2406	丸綾歌町栗熊東 431	(0877) 86-2006	寒川 義文	綾歌	761-2406	丸綾歌町栗熊東 431	(0877) 86-2006	本郷 佳子	綾歌	761-2406	丸綾歌町栗熊東 431	(0877) 86-2006
3	坂出・綾	多田羅智紀	瀬居	762-0064	坂番の州町11	(0877) 46-9193	金岡 秀治	坂東部	762-0003	坂久米町2-7-46	(0877) 46-2159	金岡 秀治	坂東部	762-0003	坂久米町2-7-46	(0877) 46-2159
4	小豆	平野 卓豊	豊島	761-4661	小土庄町豊島 家浦2516	(0879) 68-2020	大山 修	小豆島	761-4431	小豆島町片城 甲44-1	(0879) 82-2136	大山 修	小豆島	761-4431	小豆島町片城 甲44-1	(0879) 82-2136
5	さぬき・東かがわ	江口 俊史	志度	769-2101	さ志度2214-4	(087) 894-0148	松浦 隆夫	大川	769-2604	東西村1510	(0879) 25-2175	大路 仁	引田	769-2901	東引田545-1	(0879) 33-3101
6	仲多度・善通寺	小林 理昭	善西	765-0013	善文京町4-1-1	(0877) 62-2340	片木 賢治	善西	765-0013	善文京町4-1-1	(0877) 62-2340	片木 賢治	善西	765-0013	善文京町4-1-1	(0877) 62-2340
7	三・豊・観音寺	大原 一仁	三豊	768-0101	三山本町辻876	(0875) 63-3028	久保田員生 訖	間訖	769-1101	三訖間町訖間 5796-1	(0875) 83-2108	宮本 義夫	三豊	768-0101	三山本町辻876	(0875) 63-3028

部 会 役 員

No	部 会	部会長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	国 語	小竹 正吾	香 南	761-1404	高 香南町横井801	(087) 879-2064	大西小百合	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	田村 恭子	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
2	社 会	小西 一郎	庵 治	761-0130	高 庵治町691-1	(087) 871-2716	山城 貴彦	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大和田 俊	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
3	数 学	壹原 正己	綾 歌	761-2406	丸 綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006	太田 隆志	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	山野 景子	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原1110	(0877) 98-2027
4	理 科	岩井 秀樹	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937	鷺辺 章宏	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	新谷 千津	香 東	761-8044	高 円座町771	(087) 886-6580
5	音 楽	白井 隆	太 田	761-8073	高 太田下町1800	(087) 866-1370	堀田 真央	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	石原 美帆	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340
6	美 術	高原 健二	高松一	760-0068	高 松島町2-14-5	(087) 832-0311	渡邊 洋往	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	池内 直樹	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131
7	保健体育	三好 昭彦	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131	増田 一仁	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	倉山 佳子	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
8	技 術	多田羅智紀	瀬 居	762-0064	坂 番の州町11	(0877) 46-9193	渡邊 広規	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	池下 香	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
9	英 語	西野美智子	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜717	(0875) 52-2152	伊賀 梨恵	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	明田 典浩	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
10	養 護	遠藤 賢	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	大倉 陽子	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	篠原 麻佑	丸 南	761-0093	丸 郡家町3690	(0877) 25-0700
11	道 徳	十河 聖司	観中部	768-0040	観 柞田町甲1237	(0875) 25-3622	石田 卓司	高松北	761-0121	高 牟礼町牟礼1583-1	(087) 845-2155	小西ゆかり	志 度	769-2101	さ 志度2214-4	(087) 894-0148
12	特別活動	細川 昌宏	さ 南	761-0901	さ 大川町富田西2823-1	(0879) 43-4304	久武 滋	長 尾	769-2301	さ 長尾東954	(0879) 52-3182	横尾 昌彦	さ 南	761-0901	さ 大川町富田西2823-1	(0879) 43-4304
13	生徒指導	半山 章人	坂東部	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877) 46-2159	佐々木秀幸	坂 出	762-0026	坂 小山町2-1	(0877) 46-1188	武上 大輔	坂東部	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877) 46-2159
14	メディア教育	萱原 正己	綾 歌	761-2406	丸 綾歌町栗熊東431	(0877) 86-2006	政岡 克己	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-2	(0879) 25-1365	藤原 悟	玉 藻	760-0077	高 上福岡町714-1	(087) 861-8196
15	人 同 和 教 育	新名 勝	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181	大西 孝敬	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181	池下 一顕	満 濃	766-0022	仲 まんのう町吉野下957	(0877) 73-2107
16	学 校 図 書 館	大原 一仁	三 豊	768-0101	三 山本町辻876	(0875) 63-3028	白杵 和子	三野津	767-0032	三 三野町下高瀬720	(0875) 72-5209	岡田 利廣	観 音 寺	768-0061	観 八幡町2-10-7	(0875) 25-2440
17	学 校 保 健 教 育	井上 勝之	満 濃	766-0022	仲 まんのう町吉野下957	(0877) 73-2107	未澤 和士	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877) 33-2271	藤原 文子	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877) 33-2271
18	特別支援教育	遠藤 賢	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	三宅 正二	丸 西	763-0033	丸 中府町3-11-1	(0877) 22-2251	横田 知美	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360
19	へ き 地	溝淵 浩二	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506	高木 正史	伊 吹	768-0071	観 伊吹町549	(0875) 29-2102	佐光 隆	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506
20	学 校 事 務	長尾 卓也	高 瀬	767-0011	三 高瀬町下勝間2725-1	(0875) 72-3161	守谷 早苗	豊 中	769-1506	三 豊中町本山甲148-1	(0875) 62-2071	松下 祐美	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360
21	進路指導	大北 徹	丸 南	761-0093	丸 郡家町3690	(0877) 25-0700	岩瀬 景亮	木 太	760-0080	高 木太町5059-3	(087) 866-5588	井上 聖也	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360
22	学 校 給 食	三木 信行	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877) 33-2271	鈴木麻奈未	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原1110	(0877) 98-2027	氏家 智子	琴 平	766-0003	仲 琴平町五條661	(0877) 73-4181

平成30年度 予算

4 部会配分金

1 会員数	2,089 人
2 収入と支出	
【収入】	
会費	2,925円 × 2089人
助成金	6,110,325 円
繰越金	100,000 円
利息	1,282,273 円
	500 円
合 計	7,493,098 円

【支出】	
各郡市支部	1,425円 × 2089人
各教科・教科外部会	2,976,825 円
研究大会補助金	1,364,000 円
本部事務局費	790,000 円
	35,000円 × 0 + 50,000円 × 11 + 80,000円 × 3
	2,362,273 円
合 計	7,493,098 円
※本部事務局費（予備費）	962,273 円

3 支部別会員数および配分金額

支部番号・支部名	平成28年度会員数	平成30年度会員数	配 分 金
1 高 松 支 部	916	916	1,305,300 円
2 丸 亀 支 部	236	236	336,300 円
3 坂 出・ 綾 歌 支 部	225	225	320,625 円
4 小 豆 支 部	74	74	105,450 円
5 さぬき・東かがわ支部	155	155	220,875 円
6 仲多度・普通寺支部	182	182	259,350 円
7 三豊・観音寺支部	301	301	428,925 円
合 計	2,089	2,089	2,976,825 円

部 会 名	基礎配分金	研究大会補助金				合計
		事前研究	県大会	四国大会	全国大会	
1 国 語	56,000					56,000
2 社 会	56,000					56,000
3 数 学	56,000					56,000
4 理 科	56,000					56,000
5 音 楽	40,000					40,000
6 美 術	40,000		80,000			120,000
7 保 健 体 育	56,000					56,000
8 技 術・ 家 庭	48,000		80,000			128,000
9 英 語	56,000					56,000
10 養 護	36,000					36,000
11 道 徳 教 育	36,000	50,000				86,000
12 特 別 活 動	144,000		50,000			194,000
13 生 徒 指 導	144,000		50,000			194,000
14 メ デ ィ ア 教 育	144,000		80,000			224,000
15 人 権・ 同 和 教 育	144,000		50,000			194,000
16 学 校 図 書 館	36,000	50,000				86,000
17 学 校 保 健	36,000	50,000				86,000
18 特 別 支 援 教 育	36,000	50,000				86,000
19 へ き 地 教 育	36,000	50,000				86,000
20 学 校 事 務	36,000	50,000				86,000
21 進 路 指 導	36,000	50,000				86,000
22 学 校 給 食	36,000	50,000				86,000
部会配分金	1,364,000	400,000	150,000	240,000	0	2,154,000
支部配分金	2,976,825					2,976,825
本部事務局(旅費等)	1,400,000					1,400,000
本部事務局(予備費)	962,273					962,273
合 計	6,703,098	400,000	150,000	240,000	0	7,493,098

・各支部への配分金は1,425円 × 会員数とする。
 ・県大会については教科35,000円、特別の教科・教科外（養護含む）50,000円、四国以上の大会は80,000円の助成金とする。
 ・養護部会を含め研究大会がない特別の教科・教科外部会は36,000円の基礎配分、研究大会がある部会は144,000円の基礎配分とする。ただし、教科部会は従来通りで変更なしとする。
 ・事前研究費として養護部会及び特別の教科・教科外部会に50,000円を助成する。

香川県中学校教育研究会 会則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は、原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は、中学校教育に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は県内中学校に勤務する教職員をもって組織し、下記の支部と部会をおく。

高 松 支 部	国語教育研究部会	道徳教育研究部会
丸 亀 支 部	社会科教育研究部会	特別活動研究部会
坂出・綾歌支部	数学教育研究部会	生徒指導研究部会
小 豆 支 部	理科教育研究部会	メディア教育研究部会
さぬき・東かがわ支部	音楽教育研究部会	人権・同和教育研究部会
仲多度・善通寺支部	美術教育研究部会	学校図書館研究部会
三豊・観音寺支部	保健体育教育研究部会	学校保健研究部会
	技術・家庭科教育研究部会	特別支援教育研究部会
	英語教育研究部会	へき地教育研究部会
	養護研究部会	学校事務研究部会
		進路指導研究部会
		学校給食研究部会

第5条 支部・部会の運営については細則をもって定める。

(事 業)

第6条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 2 各教科、道徳、特別活動、およびその他の中学校教育に関する研究活動の育成と振興
- 3 教育に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 4 研究会、講演会、講習会の開催
- 5 その他必要な事業

(役 員)

第7条 本会は、会長1名および副会長3名をおく。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第8条 会長及び副会長は、運営委員会において選出する。

- 2 役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 3 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第9条 本会に会計監査2名をおく。

- 2 会計監査は、会計事務を監査する。
- 3 会計監査は、運営委員会において選出する。

(運営委員会)

第10条 本会の運営について協議するため、本会に運営委員会をおく。

- 2 運営委員会は、会長、副会長、県校長会理事、第4条にかかげる各支部の代表者1名および各研究部会の代表者1名をもって構成する。

- 3 運営委員会は会長が招集する。
- 4 本会の予算決算は運営委員会で承認する。

第10条の2 会長は必要あるときは、支部長会、教科部会長会、特別の教科・教科外部会長会を招集することができる。

(事務局)

第11条 本会に事務局をおき、庶務部と研究部をおく。

- 2 事務局には事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長をおく。
- 3 前項の職員は会長が委嘱する。
- 4 事務局長は、本会の事務を処理する。
- 5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務を整理する。
- 6 別に第4条にかかげる支部および研究部会にそれぞれ部会事務局長をおき、本会の事務処理を補佐する。
- 7 研究部長は、本会の研究活動を推進する。
- 8 研究部次長は、研究部長を補佐する。

(経理)

第12条 本会経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月31日に終わる。

(会則の変更)

第14条 会則の変更は、運営委員会で出席委員の3分の2以上の賛成で議決しなければならない。

附 則

- 1 この会則は、昭和36年5月1日から実行する。
- 2 昭和38年7月5日改正
昭和40年5月26日改正
昭和42年7月20日改正
昭和43年1月17日改正
昭和46年12月7日改正（昭和47年4月1日より施行）
昭和51年1月30日（2部会の名称変更）
昭和54年12月17日（1部会新設）
昭和55年12月16日（1部会廃止）
昭和63年12月1日（1部会新設）
平成6年12月13日（1部会新設）
平成11年12月10日（1部会新設）
平成12年12月8日（1部会統合 平成13年4月1日より施行）
平成13年12月7日（第10条の2追加・一部修正 平成14年4月1日より施行）
平成15年5月30日（第4条の一部修正）
平成17年12月6日（支部再編及び部会統廃合のため第4条の一部修正
平成18年4月1日より施行）
平成18年12月14日（1部会の名称変更 平成19年4月1日より施行）
平成30年5月24日（第10条の2・名称の一部修正）

香川県中学校教育研究会 部会運営細則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会〇〇研究部会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は〇〇に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、香川県内中学校に勤務する教職員をもって組織する。

(事 業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 1 中学校〇〇に関する研究活動の育成と振興
- 2 中学校〇〇に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 3 研究会、講演会、講習会の開催
- 4 その他必要な事業

(役 員)

第6条 本会は、会長1名および副会長〇名をおく。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 会長および副会長は、理事会において選出する。

- 1 役員の任期は1年とする。
ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 本会に、会計監査2名をおく。

- 1 会計監査は、会計事務を監査する。
- 2 会計監査は、理事会において選出する。

(事 務 局)

第9条 本会事務局をおく。

- 1 事務局には、事務局長、会計長をおく。
- 2 前項の職員は、会長が委嘱する。
- 3 事務局長には、本会の事務を処理する。
- 4 会計長は、本会の経理を処理する。

(経 理)

第10条 本会の経費は、本部よりの配分金をもってこれに当てる。
本会経費の運用は、年度当初の予算をもって執行する。

(会 計 年 度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この細則は、昭和36年5月1日より実施する。

香中研研究大会開催地区割り当て計画

(平成26年度第2回運営委員会でH30～H38変更、H30.5.15現在)

(アルファベット：県大会 ◎：四国大会・中四国大会 ☆：全国大会)

【教科】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
国語			A ◎			D			C		A ◎				E ☆			※			
社会				A ☆		E		B ◎				D				C ◎		E			
数学			D				A ◎		C			E			B ◎			A			
理科			E ◎			A			B		C ◎				A			E			
音楽			A			B			E ◎			A			D			A ◎			
美術		E ◎				A				A ◎		D			B			A			
保健体育			B ◎			A			D			A ◎			E			C			
技術・家庭	B ◎		C			E				A ◎		C A			D			B			E C
英語			D		A ◎				B				A ◎		A			E			
養護			A			C			E			B			A			D			

該当支部、
教科部会
承認済み

※国語 H39四国大会開催予定 (B丸亀・仲多度・善通寺) のため変更

【教科外】

■ H32より改編予定

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
道徳教育			A ☆		D			C			E ◎			B		A ◎					
特別活動	B			C			A			D				E			A				
生徒指導	A			D			E			C				A			B				
メディア教育		C ◎		E			D			B ◎				A			A		◎		
人権・同和教育	C			A			B			E				A			D				
学校図書館			C ◎		A		B				E ◎	☆		D			A				
学校保健	H32より「教育相談部会」に										B	県教委 主催	A			D					
特別支援教育			B ◎		A			D			A ◎			E			C				
へき地教育	①			② ◎							①					②					
学校事務			I				II				III			IV			I				
進路指導	H32より特活と統合							E			A			◎			A				
学校給食		B			C			A			B			A			E				

夏季研なし
統一日に研修会
H32夏季研は部
会一任

要相談

要相談

<備考> A = 高松、B = 丸亀・仲多度・善通寺、C = 坂出・綾歌、D = 小豆・さぬき・東かがわ

E = 三豊・観音寺

- ・ へき地教育のブロック割り①高・小・直、②丸・坂・三観の2ブロック
- ・ へき地教育は、香小研と共同開催のために、4年ごとの別ローテーション
- ・ 学校事務は香小研と共同開催ではあるが、3年ごとのローテーション

香中研とはこのような団体です

Q 1 香川県中学校教育研究会（香中研）とは、どのような組織ですか？

- A
- 香中研は昭和36年に発足した研究団体で、結成以来50年あまりの歴史と伝統を誇っています。
 - 県内全域を網羅する7つの支部と、中学校教育のほぼすべての教育活動を網羅する22の教科・教科外研究部会を有しており、研究活動等を通して香川県中学校教育の振興を目的としています。
 - 県内すべての市・町立中学校、県立中学校、国立大学法人附属中学校・特別支援学校と、一部の県立特別支援学校、私立中学校に勤務する多くの教職員が加入しており、平成30年度の会員数は2,089名です。

Q 2 香中研はどのような活動をしているのですか？

- A
- 各支部（7支部）単位で、地域や各学校の実態に即した研究活動等を行っています。
 - 支部会員や県内全域の会員を対象とした研修会や研究大会を定期的で開催し、先進的な研究実践を発表したり日頃の取り組みについて情報交換したりするなどして、研究の成果を広く県下に普及させています。
 - 研究大会等に向けた研究実践の情報交換等を通して、支部内はもとより広く県内会員相互の親睦が深められるとともに、互いに切磋琢磨しながら研究を進めたり研究発表の機会を提供したりすることが、中学校教職員としての仲間づくりにもつながっています。
 - 支部や県レベルで計画的・組織的に事業を展開しているので、香川県の中学校教育の充実や教職員全体の資質・能力の向上に大きく貢献しています。
 - 四国大会や全国大会を本県で開催したり、大会等で研究発表したりする際にも、香中研が推進の中核となっています。

Q 3 教育委員会や中学校長会との関係はどのようになっていますか？

- A
- 香中研は、香川県教育委員会や市町教育委員会、中学校長会との密接な連携の下に運営されています。
 - 香川県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言を得ながら、授業研究など学校現場における日々の教育実践を重視した研究活動等を進めています。
 - 教育委員会の教育の基本理念や教育方針、重点項目、教育施策等を具現化する研究活動等を進めています。

Q 4 教育委員会等から香中研に対して、具体的にどのような支援や配慮がされているのですか？

- A
- 市・町立中学校の香中研会員には、関係市・町から会費の半額程度が教育関係団体補助金として援助されています。これにより、会員の実質負担額が大幅に軽減されています。
 - 香川県教育委員会から研究委託を受け、研究活動に対する指導・助言を得るとともに、研究活動費の支援も受けています。

※ 組織等に関する詳細については、会則をご覧ください。

編 集 後 記

「研究紀要第59号」を発刊する運びとなりました。原稿を執筆していただいた皆様に心から感謝申し上げます。

さて、本年度は、すべての部会で夏季研修会、6つの部会で教育研究大会が開催されました。役員並びに関係各位のご支援・ご協力に厚くお礼申し上げます。

なお、本年度は、次のようなことを実践しました。

- ① 香川県中学校教育研究会のホームページで本部・各支部・各部会から情報発信を行いました。
- ② 受講対象者のいなかった技術科以外のすべての教科で若年研修を年2回実施しました。若年教員以外も参加できるようにすべての学校に開催案内をしました。
- ③ 香川県教育委員会研究団体等研究委託事業として、各教科等で子どもに身につけさせたい力を踏まえた『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業づくり』をテーマに、具体的な授業実践を行い、実践事例をまとめました。

本会が会員各位の資質向上にさらに寄与できますよう、今後とも夏季研修会、研究大会の一層の工夫改善を努めていただきますことをお願い申し上げます、編集後記といたします。

香川県中学校教育研究会「研究紀要第59号」

編集委員長 黒川 統夫（本部事務局長）

編集委員 谷 康弘（本部事務局次長）

香川県中学校教育研究会

研 究 紀 要

第59号

発 刊 日 平成31年3月31日

編集・発行 香川県中学校教育研究会
事務局 高松市立屋島中学校
〒761-0112
高松市屋島中町295番地

香中研研究紀要

URL <http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

印 刷 所 株式会社美巧社
高松市多賀町1丁目8番10

表紙デザイン：香川県立ミュージアム 主任専門学芸員 橋本 武生



香川県中学校教育研究会

The Society of Education for Junior High, KAQA WA

2018

